

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

愛知縣案内

始



特237
635



愛
知縣案内

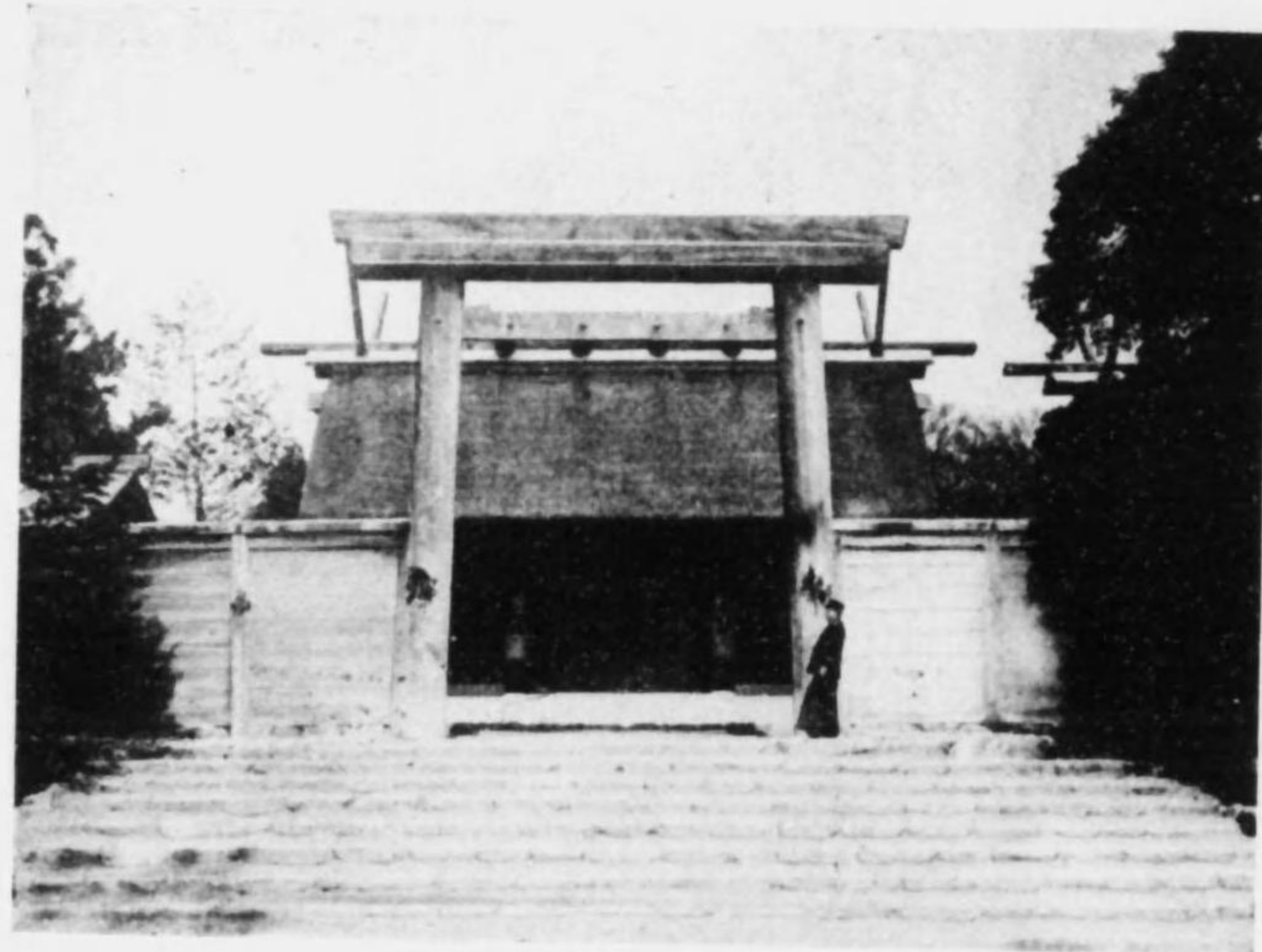


凡 例

- 一、本書は愛知縣の概要を記述したるものにして前編に於いては縣勢の一般を、後編に於いては産業、都邑、社寺、名所、舊跡等に就いて地方別に記載せり。
 - 一、本書は各項目に亘りて其の主なるもの、代表的なるもの、特色あるものを網羅せんとつこめたるも不備の點なきを保し難し他日訂正増補の機會あらんことを望むものなり。
 - 一、本書の記事中現況を示す數字は多く昭和六年、同七年度の統計に據りたり、又後編に於ける交通機關名稱の電氣鐵道、鐵道等を線と略記せり。
 - 一、本書の編纂は齋藤俊之助を主査とし小栗鐵次郎、増子篤協力之に任せり。
 - 一、本書編纂に就いては末廣統計調査課長、深尾地方統計主事終始周到なる注意と、懇切なる指導を與へられたり。
- 本書の資料蒐集に當りて廳内各課及び關係官衙、市町村を煩はしたるもの多し。共に茲に記して深謝の意を表す。

昭和九年九月十一月

編 者 識



熱田神宮



愛知縣廳

愛知縣案內目次

前編

地序	沿	自	財	神	兵
地位	人口	革命	政治	社及宗教	宗
位置	候	治	教	事	教
勢	口	社	社	社	社
置	候	政	政	政	政
說	候	治	治	治	治
一	六	九	一	三	三
四	六	七	二	三	三
四	六	九	一	三	三
一	六	七	二	三	三

一

徵兵検査.....二八
 海軍志願兵.....二九
 在郷軍人会.....二九
 軍人家族慰藉救護.....三〇
 防空防護施設.....三〇

國寶及び史蹟名勝.....三一

教 育.....三二

初等教育.....三四
 「小學校」、「幼稚園」.....三四
 中等教育.....三五
 「師範學校」、「中學校」、「高等女學校」、「實業學校」、「其他」.....三五
 高等教育.....三七
 特殊教育.....三七
 「特殊教育」、「各種學校」.....三七
 其の他.....三六
 「特殊施設」、「學事獎勵」.....三六
 社會教育.....三六
 少年少女團體.....三六

社

社

「男子青年團」、「女子青年團」.....三三
 青年訓練所.....三三
 勞務者教育.....三三
 教化事業.....三三
 婦人團體.....三四
 圖書館.....三四
 映畫教育.....三五
 社會事業.....三六
 兒童保護事業.....三七
 「妊産婦並に乳幼児保健事業」、「保育事業」、「感化事業」、「兒童虐待防止事業」、「貧
 兒扶助」、「兒童愛護運動」.....三七
 救貧事業.....三九
 「公的救助」、「私的救助」.....三九
 方面事業.....四〇
 救療事業.....四〇
 「恩賜醫療救護事業」.....四〇
 經濟的保護事業.....四〇
 隣保事業.....四一

產

勞働保護事業.....四二

「職業紹介事業」、「失業應急事業」.....四二

地方改善融和事業.....四三

「地方改善事業」、「融和部」.....四三

釋放者保護事業.....四三

業.....四三

農.....四四

「農業組織」、「農產物」、「園藝業」、「肥料消費狀況」、「その他」.....四四

副.....四九

「大根切干」.....四九

蠶.....五〇

絲.....五〇

「桑園」、「桑苗」、「栽桑」、「蠶種製造」、「養蠶業」、「養蠶實行組合」、「製絲業」、「組合」.....五〇

畜.....五五

產.....五五

「養鷄」、「組合」.....五五

林.....五七

「林野」、「林業地」.....五七

礦.....六一

土

水.....三三

產.....三三

「漁業」、「河川漁業」、「水産製造」、「淡水養殖業」、「愛知水産會」、「漁業組合」、「同業組合」.....三三

工.....三七

業.....三七

「紡績業」、「織物業」、「染物業」、「莫大小」、「織機製造業」、「車輛製造工業」、「時計製造業」、「金屬製品工業」、「軍需品工業」、「陶磁器製造工業」、「土管瓦煉瓦製造工業」、「七寶製造業」、「セメント製造工業」、「人造肥料製造工業」、「漆器」、「其他の化學工業」、「醸造業」、「製粉業」、「漬物類」、「雜工業」、「組合」.....三七

商.....三八

業.....三八

「會社」、「倉庫業」、「市場」、「貿易」、「金融」、「團體」、「組合」.....三八

業.....三八

「農業倉庫」.....三八

交通.....三六

路.....三六

鐵道及軌道.....三六

「國有鐵道」、「私設鐵道」.....三六

河川.....三〇

灣.....三〇

都市計畫	九一
都市計畫區域	九二
都市計畫事業	九三
耕地整理	九三
警備	一〇三
警察	一〇三
消防	一〇四
電氣及瓦斯事業	一〇五
瓦斯	一〇六
衛生	一〇七
病院	一〇八
上下水道	一〇八
下水處理場	一一〇
尿尿處分	一一一
塵芥處理	一一三
屠場	一一三
選舉	一一三

「貴族院議員」、「衆議院議員」、「縣會議員」、「市會議員」、「町村會議員」	一一五
歴代の知事	一一五
官署一覽	一一七

後編

名古屋市の歴史	一二三
官幣大社熱田神宮	一二五
明治天皇覽穫地	一二七
名古屋港	一二八
中川運河	一二九
眞宗大谷派本願寺名古屋別院	一三〇
寶生院	一三三
盛り場 大須	一三三
萬松寺筋	一三三
七ツ寺	一三四
縣社若宮八幡社	一三四

名古屋城……………一五
 縣社東照宮……………一七
 縣社那古野神社……………一八
 中村公園……………一四〇
 建中寺……………一四一
 徳川園……………一四二
 長母寺……………一四三
 日暹寺……………一四四
 鶴舞公園……………一四五
 八事山……………一四六
 笠覆寺……………一四七
 主なる工場、會社……………一四九

「株式會社大鼎鐵工所」、「東海電極製造株式會社名古屋工場」、「日本陶器株式會社」、「日本車輛製造株式會社」、「三菱重工業株式會社名古屋航空機製作所」、「株式會社大同電氣製鋼所」、「愛知時計電機株式會社」、「日本碍子株式會社」、「庄内川レーヨン株式會社」、「主なる官公署學校銀行會社工場一覽」

豊橋市

豊橋市……………一六
 吉田城隍……………一六
 縣社吉田神社……………一六
 縣社神明社……………一七
 悟真寺……………一七
 高師原……………一七
 主なる官公署、學校、銀行、會社……………一七

岡崎市

岡崎市……………一六
 縣社伊賀八幡宮……………一七
 岡崎城隍……………一七
 菅生の川祭……………一八
 小豆坂古戰場……………一八
 愛知縣種畜場……………一八
 農林省岡崎種鶏場……………一八
 株式會社三龍社……………一八

主なる官公署、學校、銀行、會社、工場.....一七

一 宮 市

一 宮 市.....一七

國幣中社眞清田神社.....一七

三 八 市.....一八

主なる官公署、學校、銀行、會社、工場.....一八

瀬 戸 市

瀬 戸 市.....一九

窯 業.....一九

加藤春慶と其の碑.....一九

印所の粘土採掘.....一九

砂 防 事 業.....一九

主なる官公署、學校、會社.....一九

愛 知 郡

鳴 海 町.....二〇

桶狭間古戰場.....一〇一
和合ゴルフ・リンクス.....一〇二
音 聞 山.....一〇三
長久手古戰場.....一〇四

東春日井郡

小 牧 町.....一〇五

小 牧 山.....一〇六

大山廢寺塔跡.....一〇七

密 藏 院.....一〇八

龍 泉 寺.....一〇九

森 林 公 園.....一一〇

玉野川と定光寺.....一一一

西春日井郡

西枇杷島町と青物市場.....一一二

宮 重 大 根.....一一三

清 洲 町.....一一四

清洲城趾……………110
 新川の開鑿……………111
丹羽郡
 布袋町……………111
 木津用水……………111
 國幣中社大縣神社……………113
 入鹿池と尾張富士……………114
 犬山町……………117
 犬山城……………116
 木曾川の峡谷……………119
葉栗郡
 宮田用水……………111
 曼陀羅寺……………113
 木曾川堤の櫻……………114
 木曾川町……………115
中島郡

稻澤町……………116
 縣社尾張大國靈神社……………117
 性海寺……………119
 妙興寺……………120
 起町……………120
 尾張國分寺趾……………121
海部郡

津島町……………122
 國幣小社津島神社……………123
 七寶燒開祖梶常吉墓……………124
 甚目寺……………125
 方領大根……………126
 彌富町……………126
 佐屋渡……………127
知多郡
 半田町……………129

一四

半田町大本營と御野立所	二五〇
縣社神前神社	二五〇
有松絞	二五一
岡田町	二五二
大野及新舞子海水浴場	二五三
常滑焼	二五四
鶴ノ山の鶴蕃殖地	二五五
大御堂寺	二五六
内海町と其の附近	二五八
豊濱港	二六〇
郷社羽豆神社と羽豆城址	二六〇
篠島	二六二
武豊町	二六三
長尾山の聖蹟	二六五
碧海郡	
安城町	二六六
安城の農業と農會	二六七

明治用水	二六九
對歐無線電信送信所	二七一
高濱町附近の陶業	二七二
北野廢寺	二七三
縣社知立神社	二七四
八橋	二七四
刈谷町	二七六
刈谷城址	二七七
幡豆郡	
西尾町	二七八
西尾城址	二七九
一色町と大提灯祭	二七九
村社天竺社	二八一
金蓮寺	二八二
官崎海水浴場と縣社幡頭神社	二八三

一五

瀧山寺……………二八四
 大樹寺……………二八四
 信光明寺……………二八六
 眞福寺……………二八六

西加茂郡

舉母町……………二八七
 舉母城趾……………二八八
 長興寺……………二八九
 縣社猿投神社……………二九〇
 猿投山ミ御陵墓……………二九一
 舞木廢寺塔趾……………二九二
 勘八峽……………二九二

東加茂郡

足助町……………二九四
 足助城趾……………二九五
 高月院ミ松平氏墓……………二九六

北設樂郡

賀茂縣有模範林……………二九七
 田口町……………二九八
 段戸の御料林と田峰觀音……………二九八
 乳岩及乳岩峽……………二九九
 茶白山……………三〇〇
 川宇連の花ノ木……………三〇一
 津具金山……………三〇一

南設樂郡

新城町……………三〇三
 野田城趾……………三〇四
 長篠城趾……………三〇四
 鳳來峽……………三〇七
 鳳來山と鳳來寺……………三〇八
 實飯郡……………三一〇
 宮路山……………三一〇

渥美郡

三河國分寺社	三〇
國幣小社砥鹿神社	三一
豊川閣と豊川稻荷	三二
三河海苔	三三
縣社菟足神社	三四
國府町	三五
三谷町	三五
蒲郡の海岸	三六
岩屋觀音	三九
普門寺	四〇
東觀音寺	四一
田原町	四二
田原城	四二
伊良湖岬	四三
福江町	四五

八名郡

阿寺の七瀧	三七
黄柳の自然林	三八
富賀寺	三九
縣社賀茂神社	三九
石卷山	四〇

挿畫目次

前編

熱田神宮(口繪)	二
愛知縣廳(口繪)	二
名古屋城	二
中ノ町尋常高等小學校	二五
名古屋醫科大學	二六
愛知縣昭和塾堂	三〇

愛知縣安城農事試驗場……………四六
 河田養蠶傳習所全景……………五二
 産卵記録保持鶏……………五二
 砂防工事施行前……………五八
 同 施行直後……………五九
 同 施行十八年後の林相……………六〇
 賀茂縣有林の林道……………六一
 打瀬網 漁船……………六三
 毛織物作業狀況……………六九
 東海道松並木……………八六
 尾 張 大 橋……………八七
 都市計畫街路……………九一
 中川運河中川口開門……………九三
 平和用水組合に於ける區劃整理狀況……………九六
 五十四吋排水機を裝備せる機關室……………九七
 矢作水力眞弓發電所……………一〇五
 名古屋市上水道配水塔……………一〇〇

後 編

御幸本町通……………二四
 廣小路夜景……………二四
 熱田神宮鎮皇門……………二五
 明治天皇覽穫地……………二七
 名古屋屋港……………二八
 眞宗大谷派本願寺名古屋別院本堂……………三〇
 寶生院本堂……………三二
 萬松寺通……………三三
 名古屋城御殿立關車寄……………三五
 東照宮例祭の山車……………三八
 秀吉産湯の井戸……………四一
 日暹寺舍利奉安塔……………四四
 鶴舞公園……………四五
 八事山興正寺の五重塔……………四七
 花田工場地帯……………一六七

一一一

玉絲工場に於ける作業状況	一七
吉田城趾	一六
悟真寺大書院内御座の間	一七
石製品	一六
岡崎城趾	一六
家康産湯の井戸	一五
農林省岡崎種鶏場	一八
眞清田神社	一八
三八市場の状況	一九
瀬戸市街を望む	一九
陶磁器製造状況	一九
加藤春慶の碑	一九
印所に於ける粘土採掘作業状況	一九
鳴海紋り作業状況	一九
桶狭間古戦場	一九
和合ゴルフ・リンクス	一九
小牧山	一九

玉野川	二二
徳川義直廟	二四
西枇杷島青物市場状況	二六
清洲城趾	二九
大縣神社	二九
石上祭	二九
木曾川と犬山城	二九
曼陀羅寺	二九
木曾川堤の櫻	二九
大國靈神社の裸祭	二九
津島神社	二九
昭和糸糸彌富工場全景	二九
有松絞り作業状況	二九
新舞子海水浴場	二九
輸出向陶磁器製造状況	二九
鶴ノ山に於ける鶴の棲息状態	二九
源義朝の墓	二九

一一一

磔浦の磔岩……………二五九
 師崎港より見たる羽豆神社々叢……………二六一
 篠島より北方の屬島を望む……………二六二
 武豊港……………二六四
 農耕の状況……………二六八
 明治用水の源地大堰堤……………二七〇
 對歐無線電信送信所……………二七一
 高濱に於ける土管積出状況……………二七三
 諏訪神社の大提灯……………二八〇
 大樹寺の多寶塔……………二八五
 勘八峽……………二九三
 香嵐溪の紅葉……………二九五
 松平氏の墓……………二九六
 乳岩及乳岩川……………三〇〇
 長篠城趾……………三〇五
 鳳來寺山……………三〇七
 鳳來峽……………三〇八

砥鹿神社……………三二二
 妙嚴寺吒枳尼天堂……………三二三
 蒲郡海岸の風景……………三三六
 國際觀光ホテル……………三三七
 岩屋觀音……………三三九
 伊良湖岬の尖端……………三四
 阿寺の七瀧……………三七

愛知縣案内

前編

愛知縣案内 前編

序 説

和やかな氣候、廣漠の平野、重疊の山、それ等の間に指脈を流れる河川、靜謐なる海灣等の恵みのうへ、京畿と東國との交通の要所をなしてゐた愛知縣の地に、早くより優良民族の居住、發展の歴史をも認め得ることは、蓋し自然のことであらう。

かの神劍にからむ物語は景行天皇の朝のこゝである。皇子日本武尊が東夷を平定して還軍の御途次、天璽草薙神劍を、熱田に生れ在ます妃宮竇姫命に託して、更に膽吹山の荒神討征に向はせられたが、不幸にして能褒野に薨ぜらるゝや、命の嘆きはただならず、せめては此の神劍こそ尊の御靈と身を離さず、遂に熱田の地を卜し、此處に奉齋せられて一千六百有餘歳、異る時代

の装ひにも關らず年と共に、衆民は云はず、歴世皇室の尊崇彌々篤く神苑益々靈境ミ淨む官幣大社熱田神宮である。

ついで源頼朝は此の神苑に由縁深い熱田に生れた。當時世は無能力な公卿ミ不謹慎な武家とによつて王朝末期の病的社會に馴致されてゐた。頼朝は囁然立つて之を一掃し、武家政治を確保したのであつた。

さりながら政權が北條氏の手につるや、高時の暴政ミなつた。英邁なる後醍醐天皇は之を倒して朝權を回復せんミし給ふたが、兵を擧げさせられる前に事洩れ、笠置山に潜幸し給ふたのである。ミきに強弓で鎮西八郎爲朝を聯想する足助次郎重範の笠置山に於ける忠誠ミ其の一族の王事に殉じた勤王ミは本縣のために萬丈の氣を吐くに足るものがあつた。かくして奮迅の苦闘酬ひられ、世は一たび建武中興の凱歌を奏したが、その基礎いまだ固るに至らず、再び世は足利の暗黒時代へ崩壞の一途を辿り、聽て下剋上の有様となつて下層に沈淪する有爲の人々は常に隙を覘つて上を凌がんと劍の塵を掃ふ

て宇内をせましとした。所謂群雄割據の世相である。

波濤は波濤を呼び、暗雲は地に垂れ、烈風之を裂き散らさんとすれば密雲更に掩ふて心なき草木も早や劫滅の時到れるかと地にひれ伏した。闇のさ中を時は流れた。そのぬば玉の闇の世に一條の陽光を颯ミ射入したのは織田信長の天下蕩平の策であつた。次いで豊臣秀吉その後を繼ぎ、亂階を鎮めて漸く社會の秩序を恢復したが、更に三河より徳川家康出でて此等の遺業を完成し萬民鉞腹擊壤の泰平を謳歌するに至つたのである。

斯くの如く、何時果つべくもなかつた冥暗の世に陽を迎へた三傑の非凡な素質は、もとより先天性に依るとしても此處にいま一つ、地理的環境の重厚な理由も看過し得ないことであらう。

幾世の擾亂のさ中にあつて、當時地方農民の心も亦競々、けじめもさだかならぬ歳月を送り迎へてゐたのである。然るに、天惠多き地に培はれ來つた快朗の精神ミ、過去幾百歳のあひだ風水と闘ひ抜いて來た根強い力を有つ此

の地の農民のみは獨り田畠の復興に黙々と従事してゐた。かうした土地の内
部より醗酵する氣魄が凝つて一團の雲となり、時代の擾亂の渦中にぬつくと
起ち上つた英雄の姿を化身したのである。

其の後三河は小藩や旗下に分割せられ、尾張には名君敬公が封ぜられて金
鯨城の出現をなつた。敬公始め各領主は専ら意を殖産工業に注いで幾多の新
田を拓き、治水に灌漑に改修を加へ、或は各種産業を保護奨励するなき、後
年此の地が文物燦然として東海の儀表となつた基礎はこゝに堅く築かれたの
である。

而して愛知縣が今日産業王國として世に誇り得る所以も歴史に遡つて愈々
その來由を瞭らかにし得るのである。

地理

位置 本縣は本邦の中央、東經百三十六度四十分より百三十七度五十分

北緯三十四度三十六分より三十五度二十六分に位し、尾張三河の兩國より成
る。廣袤四千九百四十九方軒、五市十八郡を統轄してゐる。東は静岡縣に、
東北の一部は信濃の山脈と連互して長野縣に、北は美濃の群山に據つて岐阜
縣に、西は環流する木曾川によつて岐阜三重兩縣の一部に隣接してゐる。知
多半島は長く海中に延びて伊勢海を限り、南は渥美半島斗出して風波靜穩な
渥美灣を抱擁してゐる。

地勢 山嶽は概して東部北部に多く、殊に三河は面積の十分の八以上を
占めて都邑の發達を沮害してゐる。然し攀登に苦しむほどの高峯なく、ゆる
やかに起伏する山脈は多く分水嶺をなす。豊川は東偏して南下し渥美灣に注
ぎ、矢作川は西邊を南流して知多灣に入る。

尾張に於ては北東より東方一帯に亘つて緩漫な丘陵起伏し、更に南走して
海に突出してゐるが、その西南は坦々として視野を遮るものなく廣漠たる平
野である。庄内川はその中央を東より西南に向つて流れ、木曾川は丹羽、葉

栗、中島、海部の四郡を廻流南下して尾濃勢の國界をなしその流れは洋々たる大江の相貌を具へ、遠く舟運の便をなすとともに廣く尾張平野を潤してゐる。

本縣は南に渥美、知多、伊勢の三大灣を有し、海岸線は延長三百二十餘軒に達しゐる。海上には二十有餘の島嶼散在するが、古來人の住む島は日間賀島、篠島及び佐久島の三島に過ぎない。

氣候 本縣の氣候は概して温和であるが、南に海灣を控へ、北に山嶽を負ふため地方により氣温を異にし、沿海地方は平均十五度八分、山嶽地方は平均十二度を示してゐる。

人口 昭和五年十月一日現在國勢調査の結果による本縣の人口は二百五十六萬七千四百十三人で府縣中第四位に當り、内男百二十七萬七千七百二十人、女百二十八萬九千六百九十三人、男百人に對して女百九人の割合を示してゐる。之を大正九年の國勢調査による人口二百八萬九千七百六十二人に比

べると四十七萬七千六百五十一人の増加である。

沿革

明治維新の當時、尾張には名古屋、犬山二藩の領土の他に今尾藩の飛地や熱田神宮始め多少の社寺領があつたが、明治四年七月廢藩置縣が行はれて名古屋、犬山の二縣となり、同年十一月名古屋、犬山の二縣を廢して單に名古屋縣と改め、同五年四月名古屋縣を愛知縣と改めた。

三河はもろ西尾、岡崎、豊橋、學母、田原、刈谷、西端、半原、西大平の九藩の領地並に野村、菊間、川越、岩城平、龍岡、大多喜等諸藩の飛地、幕府の直轄地、數十旗下の采邑及び三百五十に餘る社寺領等あつて其の管轄區域は頗る錯雜を極めた。明治元年新に重原藩を置き、後ち三河裁判所を置いて幕府の直轄地、旗下の采邑、社寺の領土を管轄せしめたが同三年六月に至つて諸藩の飛地、裁判所々轄を伊奈縣に移し、同四年十一月三河全國及び知

多郡を以て總て額田縣の管轄となし、同五年十一月額田縣を廢して其の所管を愛知縣に移した。

茲に始めて管地の統一を見た本縣は管内を十五區に分つたが、同九年八月之を廢して更に十八區を設けた。同十一年十二月郡區町村編制法の施行によつて従前の各區を廢し、名古屋を名古屋區と改め、他は悉く郡名を以て區畫することとなり、同時に加茂郡を割きて東、西加茂の二郡に、又設樂郡を分けて南、北設樂の二郡と定めた。同十三年二月更に春日井郡を東、西二郡に分け、越えて大正二年七月海東、海西の二郡を併せて海部郡と稱した。明治二十二年名古屋區に市制を布き従前の區役所を市役所と改稱し、各郡に町村制を實施して町村區域及び名稱を改め、舊町村名はその儘大字として残した。同三十九年四月町村自治の必要上一大合併を斷行し、その結果三百九十ヶ町村の減少を見るに至つた。同年八月渥美郡豊橋町に他の二ヶ村を併せて豊橋市と改稱、翌年四月愛知郡熱田町を名古屋市に編入した。而して大正五年七

月岡崎町に、同十年九月一宮町に、昭和四年十月瀬戸町に各々市制を布いた。又大正四年名古屋市に、昭和五年岡崎市に、昭和七年豊橋市に於いて隣接町村を併合したので、それ等市の面積は従前に數倍した。

尙ほ大正十五年郡役所廢止の後ち、郡名は單に舊行政區劃名として存することゝなつた。

自治

明治二年の版籍奉還及び同四年の廢藩置縣によつて地方制度に一新面目を開いたが、未だ準據すべき一定の法規はなく百事は概ね從來の慣習と當事者の見解とによつて處斷されてゐた。同年十月縣治條例の發布によつて縣廳内に三課を設けて諸事務を管掌したが、同十一年七月府縣會規則の制定されるに及んで始めて自治團體たることが認められ、凡て地方税を以て支辨する經費の豫算並に其の徵收方法は縣會の議決を経て執行することゝ定められた。

爾來屢々法令の改廢あつて縣の經濟は同十五年度より名古屋區と各郡とを分離し、所謂三部制を實施することゝなつた。同二十五年に於いて一度之を合同したが、同三十一年度より再び市、郡の經濟を分別し、現在に至つたものである。

管内は五市、八十一箇町、百五十八箇村に分れ、市役所五、區役所四、市役所出張所二、町村役場二百三十五（組合役場一を含む）を算へる。

水利組合は總數八十七、内普通水利組合七十八、水害豫防組合九つて、組合員の總數は二十萬八千餘人に及ぶ。其の内官吏管理三十八、市町村長管理四十九に分れ、組合豫算は近時縣管排水幹線改良事業の起工によつて著しき増加を示し、昭和八年度の豫算總額は八十七萬餘圓に達した。而して宮田用水普通水利組合の十五萬三千餘圓を最高とし、瑞穂用水普通水利組合の八十八圓を最低とする。

財政

本縣は本邦産業の中心地をなし且つ大都市名古屋を包容する關係上、警察、土木、教育、勸業、社會事業等に於いて時代の要求に順應する各般の施設に其の經營に、縣の經濟は逐年膨脹を示してゐる。之を昭和九年度歳入歳出豫算に就いて見れば特別會計を除いて總數二千五百十六萬四千二百八十二圓に上る。試みに昭和七年度歳出決算額を十年前の大正十二年度歳出決算額に比較すると一千三百五十萬圓の増加となり、更に昭和三年度決算額と對比すれば九百九十七萬圓の増加である。又七年度の一般豫算を以て他の府縣に比較すれば全國中第五位に當り、更に主なる費目に就いて觀るべきは警察費、教育費は第五位、土木費が第二位、勸業費に於いては首位を占めてゐる。而して昭和九年度當初豫算一般歳入の財源は稅收入九百九十五萬七千六百圓で、内各稅目別金額は地租附加稅三百萬五千四百五十四圓、特別地稅二十八萬九

千二百二十四圓、營業收益稅附加稅九十五萬七千八百八十六圓、所得稅附加稅百六十五萬三千二百九圓、取引所營業稅附加稅一萬六千六百六十九圓、家屋稅百三十八萬三千二百七十六圓、營業稅二十三萬四千六百二十六圓、雜種稅二百三十九萬四千七百一十一圓、礦業稅附加稅四百六圓、都市計畫特別稅二萬二千二百四十五圓となつてゐる。

又負債は他府縣に見るに同様に年を逐ふて増加の趨勢を示してゐる。試みに大正十三年度に於ける負債額八百四萬四千九百九十五圓を昭和八年度の負債額二千七百二十三萬七千七百五圓に對比すれば、一千九百十九萬七千二百十圓の増加で、之に本年度内の未起債の分約六百二十萬圓を加へれば著しき増加となる。

神社及宗教

神社 本縣の地は古くから文化が發達し交通も至便で面積の割合に人口

多く、敬神の思想亦旺んで、神社は早くから營まれてゐた。延喜式の神社に就いて見ても百四十七座の多きを算へ、式外のものにも由緒深い神社が少なくない。縣下の神社数は官幣大社熱田神宮を始め國幣社四、縣社三十一、郷社百九十三、村社二千三百四十二で、之に無格社九百四十九を加へると總計三千五百十九座となる。是等の内にて他府縣に例を見ない特種な神事の行はれる神社が尠くない。海部郡の津島神社、中島郡の尾張大國靈神社、丹羽郡の富士淺間神社、西加茂郡の猿投神社、寶飯郡の菟足神社、渥美郡の神戸神社の如きは殊に著しきものである。尙ほ近時到る處、社殿の改築、修覆が行はれ、著しく外觀と内容の充實を見るに至つた。

官國幣社並縣社一覽

(昭和八年十二月三十一日現在)

鎮座地	社格	神社名	祭	神	創立年代	例祭日
名古屋市南區 熱田新宮坂町	官幣大社	熱田神宮	草薙御劍	天照皇大神 建速素盞鳴尊 日本武尊 日靈命	景行天皇 御宇	六月三日

神社及宗教

一宮市大字一宮	國幣	眞清田神社	火明命	崇神天皇御宇	四・三
丹羽郡樂田村字宮山	〃	大縣神社	大縣神	垂仁天皇ノ二十七年八月	一〇・二
寶飯郡一宮村大字一宮	國幣	砥鹿神社	大已貴命	不詳	五・四
海部郡津島町大字向島	〃	津島神社	建速須佐之男命	欽明天皇元年	六・五
名古屋市西區茶屋町	縣社	那古野神社	建速須佐之男大神 左兵主大神 相殿 柳名田姬大神 右五男三女神	延喜十一年三月十六日	七・六
〃	〃	東照宮	德川家康相殿 〃 義直相殿	元和五年九月十七日	四・七
名古屋市中區末廣町	〃	若宮八幡社	應神天皇(左) 仁德天皇(右) 武内宿禰(右)	延喜十一年三月	五・六
〃	〃	尾陽神社	德川義直 德川慶勝	大正十一年六月三十日	一〇・八
御器所町	〃	片山八幡神社	天照皇大神 品陀別命 菊理媛命	不詳	一〇・八
大曾根町 東區	〃	吉田神社	素盞鳴命	〃	七・五
豊橋市關屋町	〃	神明社	天照皇大神	〃	二・五
〃 中八町	〃	龍城神社	本田忠勝	天文十一年	四・六
岡崎市康生町	〃				

一四

〃 伊賀町	〃	伊賀八幡宮	應神天皇 仲哀天皇 神功皇后	康平年中	一〇・五
〃 明大寺町	〃	六所神社	猿田彦命 事勝國勝長狹命 衛立船戶神 大田神外十柱	齊明天皇ノ御代	一〇・四
東春日井郡坂下町大字内津	〃	内々神社	建稻種命 天香語山命	不詳	四・五
丹羽郡大山町大字大山	〃	針綱神社	尾治針名根連命	〃	四・八
栗栗郡木曾川町大字門間	〃	伊富利部神社	譽田和氣命	〃	九・三〇
中島郡稻澤町大字國府宮	〃	尾張大國靈神社	大國主神荒魂	人皇十代	五・一
海部郡七寶村大字秋竹	〃	藤島神社	伊知伎鳴姬命	不詳	一〇・三
知多郡龜崎町大字龜崎	〃	神前神社	神倭余彥命	〃	一〇・三
碧海郡知立町大字知立	〃	知立神社	鶴茅尊不合命 彦火火出見命 玉依毘依賣命 神倭伊波禮毘古命	〃	四・三
幡豆郡寺津町大字寺津	〃	八幡社	譽田別尊	〃	一〇・七
〃 吉田町	〃	幡頭神社	建稻種命 譽田別尊 大物主神	〃	一〇・八
大字宮崎	〃			一五	

神社及宗教

神社及宗教

西加茂郡猿投 村大字猿投	縣社	猿投神社	大雄命 少彦名命 八衢比賣命 久那戸命 押黑之日子王 押黑之弟日子王	景行天皇 八衢比賣命 不詳	10・19
東加茂郡松平 村大字東宮口	〃	六所神社	猿田彦 倉稻魂命 日本武 天照大御神	〃	10・1
南設樂郡東郷 村大字大宮	〃	石座神社	天御中主命 天稚彥命 比賣大神 倉稻魂命	伊弉册命 大山祇命 素盞鳴命	大寶三年 九月 10・15
寶飯郡小坂井 町大字小坂井	〃	菟足神社	菟上足尼命	天武天皇 御宇	2・11
大字八幡村	〃	八幡宮	應神天皇 神功皇后	三女神 白鳳年中	9・15
大字白鳥	〃	總社	全國總社	不詳	10・10
大字廣石 御津町	〃	御津神社	大國主命	〃	10・14
大字形原町	〃	形原神社	埴安神	〃	10・10
大字形原町 蒲郡町	〃	赤日子神社	彦火々出口尊	〃	10・19
渥美郡田原町 大字田原	〃	巴江神社	兒島高德 三宅康貞	文化十二年 六月二十五日	10・13

八名郡賀茂村 賀茂神社 賀茂別雷命 少名彥命 速須佐之男命 天照皇大神 天平元年三月 四・五

大字櫻井 櫻井神社 伊弉册神 火産靈神 應神天皇 倭姫尊 養老二年 10・16

宗教

開化の起原古き本縣の地に早くより佛教の取り入れられたことは蓋し自然のことである。併しながら歳月を経るまゝに幾度かの變遷に遭ひ、巨剎の絶へて廢寺となつたものが少なくない。現在國分兩寺の外に礎石、遺瓦の類によつて明かに奈良朝に營まれたと思はれる寺趾が十餘に達し、而も是等寺院の建築に用ひた瓦の焼かれた窯跡も數箇所に見發見されてゐる。千數百年の昔に於いて既に、多數の規模の壯大な寺院が建立されたことは、如何に早くから佛教が盛んであつたかを物語るものである。

現在縣下に於ける寺院は天台宗八十三、眞言宗二百七十八、淨土宗七百五十四、臨濟宗三百六十三、曹洞宗九百八十四、黄檗宗十三、眞宗九百七十三、日蓮宗百四十、時宗十一、各宗聯合一、計三千六百ヶ寺で、其の住職三千二

神社及宗教

百五十七名。此の他佛道教會六百八十、神道教會五百四十二、神佛道以外の教會五十一がある。

兵 事

徴兵検査 検査は市郡を通じ徴兵署四十ヶ所を設置して実施されてゐる。最近に於ける壯丁の體格と教育程度を示せば次の通りである。

年次	受檢人員	甲種	第一乙種	第二乙種	丙種	丁種	戊種	種
昭和七年	三三、九九	六、六三	二、六四	四、九三	九、〇七	一、五九	一九	
昭和八年	三五、三〇	七、三四	二、六三	四、八七	八、六三	一、五三	二七	

年次	受檢人員	高等學校卒業以上	中學校卒業以上	高等小學校卒業以上	尋常小學校卒業以上	尋常小學校中途退學	不就學
昭和七年	三三、九九	六六	二、七三	一三、〇四	六、七五	六六	七四
昭和八年	三五、三〇	八七	二、八五	一四、二四	六、七五	五二	六〇

海軍志願兵 志願兵は年々増加の傾向にある。最近に於ける合格別、學力程度を示せば次の通りである。

年次	受檢人員	航空兵	水兵	同上電信兵	機關兵	軍樂兵	看護兵	主計兵	計
昭和七年	一、〇二八	二	六六	一一	五	八	三	一八	一六七
昭和八年	一、二二五	七	八三	一九	四九	四	三	九	一七三

年次	受檢人員	中等學校卒業以上	高等小學校卒業以上	尋常小學校卒業以上	同上次下
昭和七年	一、〇二八	五	八五	一五五	
昭和八年	一、二二五	五	九三	一四六	

在郷軍人會 在郷軍人會は縣下を通じて聯合分會三十一、分會三百八十一、會員九萬七千二百二十三名を有し、郷黨の中堅となつて活躍し成績の見る可きものが多い。

軍人家族慰藉救護 現在縣下に於ける軍人遺家族四千九百十三名、傷痍軍人六百二十八名、軍人家族一萬名中の生活困難者の慰藉救護に就いては軍事救護法及び新たに縣に設置せる軍人遺家族世話係（専任職員一名市町村を通じて千五百名の世話係を設く）を、市町村に於ける尙武團體、帝國軍人後援會、愛知支會、愛國婦人會愛知縣支部、日本赤十字社愛知縣支部、愛知縣國防義會、其他の救護團體との活動によつて遺憾なき機能の發揮を期してゐる。

防空防護施設 昭和七年十二月防空防護規約を制定して愛知縣防空防護委員會を組織すると共に名古屋防空防護委員會及び名古屋聯合防護委員會及び名古屋聯合防護團を組織せしめ既に數回に亘つて防空防護演習が實施された。次いで同九年二月瀬戸市に委員會、防護團の組織を見るに至つたが、豊橋、岡崎、一宮の各市に於いても其の施設を緊要なりとし近く組織されんとする状態にある。而して之等の團體は他府縣に卒先して設立された愛知縣國防義會の活動と相俟つて防空防護の萬全を期してゐる。

國寶及史蹟名勝



名古屋城全景 (名古屋城西區南外町)

これ等の遺蹟や史乘に於ける人物の誕生地が平地に或は山地に比較的よく保

國寶及史蹟名勝

本縣の地は古來天幸多く、文化の發達も早いので、原始時代を始め各時代に亘つて遺された遺蹟遺物が多く、由緒ある社寺の内には優秀なる建造物や寶物を所藏し、既に國寶に指定せられたものも少なくなく、殊に常闇の世を想はしめた戦國時代にあつては英雄豪傑競つて起り、其の築いた城砦、大小幾多の古戰場、なかにも桶狭間、長篠、長久手の三大戦の如きは國史の上に精彩を放つものである。

存されてゐる。

また明治維新以後に於ける聖蹟も其の數多く、これ等の保存に就いては特に注意が拂はれて居る。

本縣の地勢はなべて平坦なるため、山岳に奇勝を多く索め得ざる憾みはあるが、河川の幽邃なる名勝や沿海の明媚なる風景は比較的多く、その間に散在する天然紀念物また貴重なものがある。

國寶及史蹟名勝天然紀念物一覽

(昭和九年九月一日現在)

市	建造物		寶物					史蹟名勝天然紀念物				
	社寺數	城棟數	所藏繪畫	彫刻	美術工藝	刀劍筆蹟書籍	金石	經卷	計	名勝天然紀念物	史蹟及天然紀念物計	
名古屋市	六	一	七	三	二	三〇	元	一	七四	四	一	五
岡崎市	一	一	一	三	一	一	一	一	三	一	一	一
一宮市	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
瀬戸市	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

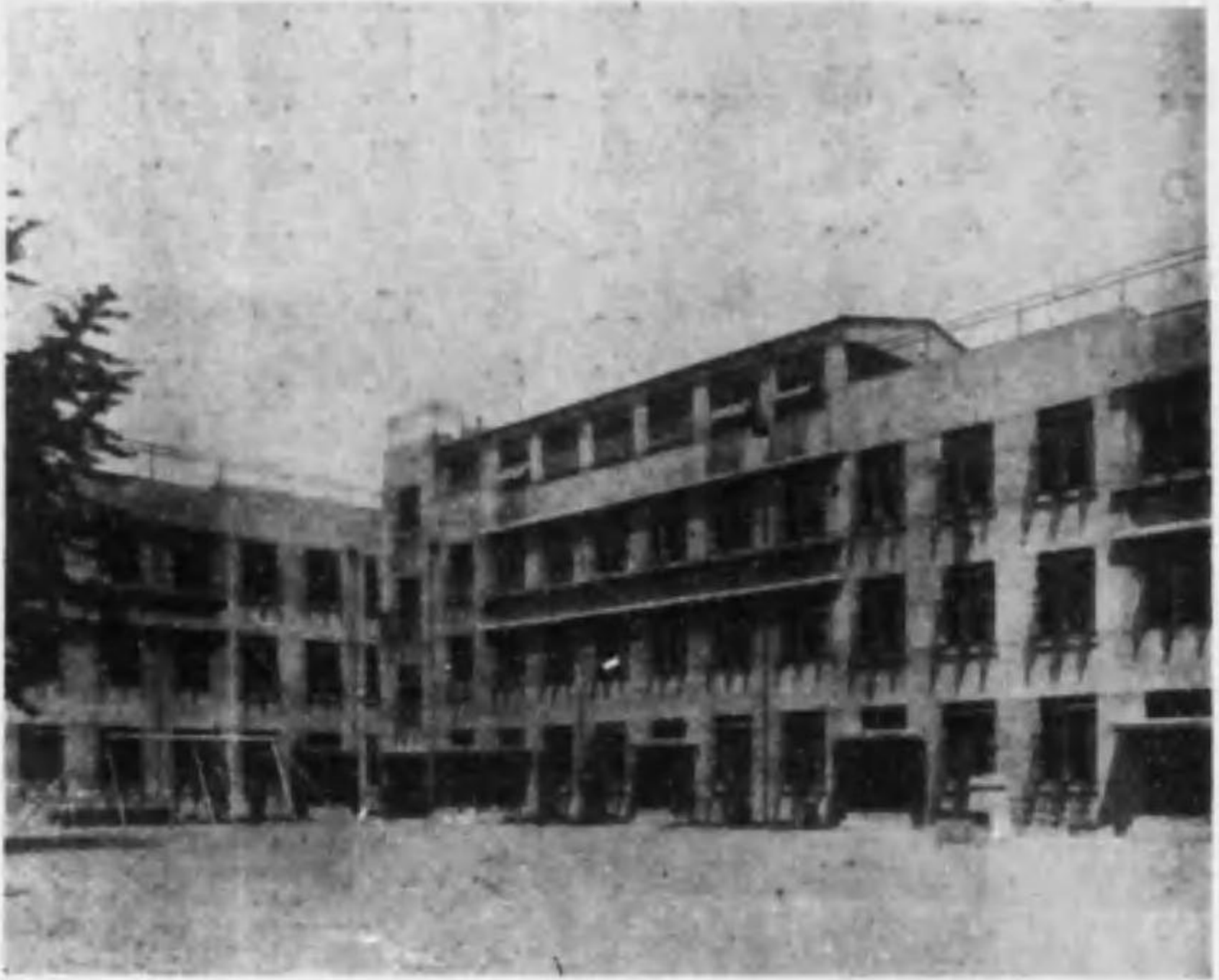
郡	東春日井郡	西春日井郡	丹羽郡	栗原郡	中島郡	海部郡	知多郡	碧海郡	幡豆郡	額田郡	西加茂郡	東加茂郡	北設樂郡	南設樂郡	寶飯郡
社寺數	三	一	一	一	四	三	三	二	三	六	一	一	一	一	三
城棟數	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
所藏繪畫	三	一	一	一	六	四	二	二	二	一	二	一	一	一	四
彫刻	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
美術工藝	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
刀劍筆蹟書籍	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
金石	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
經卷	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一四	一	二	二	一五	六	二	三	三	二	二	二	二	二	五
名勝天然紀念物	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
史蹟及天然紀念物計	二	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

總	八	渥
計	名	美
三		一
一		
七		一
四	二	二
元		
五	二	七
八		一
七		
二		
元		
一		一
一		
六	二	九
六		一
一		
四	一	
三	〇	
二	一	一

教 育

本縣の地は明治維新前から教育隆盛で、尾張藩の明倫堂始め各藩みな學館を設け、私塾には佐藤牧山の朝日學校、鷺津幽林の有隣堂始め四十三塾あつて當時の文化に貢献するところ尠くなかつたが、明治五年學制の發布を見るに及んで教育上に一新紀元を劃し、爾後初等教育、中等教育も漸次組織的な發達を遂げて今日に至つた。

初等教育 小學校は現在尋常小學校二百三十三、尋常高等小學校四百七、高等小學校十二で、児童總數四十萬六千餘名、教員八千九百六十九名を算へ一ヶ年の經費は九百四十七萬七千三百九十二圓である。



(町ノ中區中市屋古名) 校學小等高常尋町ノ中

小學校教育の搖籃であり、家庭教育の補足機關である 幼稚園は現在公私立合せて七十一で其の園兒總數六千餘名、保姆二百四十八名を算へ之に要する一ヶ年の經費は十四萬五千三百七十三圓である。

中等教育 師範學校は男子二、女子一何れも本科第一部、第二部及び専攻科を設け、生徒數一千百二十餘名、教員九十一名に達し、之に要する一ヶ年の經費は二十七萬八千二百七十七圓に上る。

本科に於ては入學生徒の四分の三を自費生、四分の一を給費生とし、給費生に對しては學資金月額六圓宛を支給し、卒業後の服務義務年限は本科第一部

が三ヶ年、同一部が一ヶ年半、専攻科が一ヶ年と定めてゐる。

中學校は縣立十四、私立五で生徒總數一萬二千二百五十餘名、教員五百七名を有し、之に要する一ヶ年の經費は縣費七十四萬五百六十七圓、私費十八萬一千百三十九圓である。

高等女學校は縣立十三、市町村立九、私立八（内補習科を置くもの十八、高等科並に専攻科を置くもの各一）で生徒總數一萬三千七百十餘名、教員五百九十七名を有し、之に要する一ヶ年の經費は公費六十七萬八千七百五十一圓、私費二十萬二千八百八十三圓である。

實業學校は工業學校六、農業學校八、商業學校十六、農商學校一、職業學校一で生徒總數一萬四千三百三十二名、教育七百九名を有し、之に要する一ヶ年の經費は公費七拾七萬七千四百六拾四圓、私費四拾一萬四千七百七圓である。

其の他本縣は小學校卒業後中等學校へ入學し得ざる者の教育機關として

實業補習學校を各地に設置し、現在工業四、農業三百二十八、水産四、商業三十二、裁縫十等であるが之に二學科以上設置のもの七十二を加ふれば總計四百五十となる。其の生徒總數三萬九千三百十五名、教員三千八百八名を有し、毎年之に要する經費六十三萬餘圓を支出してゐる。

本縣は又大正七年に修業年限二ヶ年の實業教員養成所を設立した。現在生徒三十九名、教員十一名を有し、毎年經費一萬五千三百二十六圓を支出してゐる。

高等教育は官立に名古屋醫科大學、第八高等學校、名古屋高等工業學校、名古屋高等商業學校があり、私立には金城女子專門學校、眞宗專門學校、相山女子專門學校、安城女子專門學校等がある。

特殊教育 特殊教育としては縣立盲啞學校一、同聾啞學校一、私立盲啞學校二で何れも初等部、中等部を設け、生徒總數四百二十四名、教員五十四名を有し、之に對し縣費五萬一千四百六十四圓を支出してゐる。

各種學校は合計九十三校ある。これ等は主として裁縫、簿記、電氣、速

算、自動車、産婆、看護婦等直接職業に關する學術技能を教授する學校である。

其の他 特殊施設 として本

縣は明治三十五年以來東亞同文書院及び哈爾賓學院へ留學生を派遣してゐる。現在派遣中のものは東亞同文書院へ十名、哈爾賓學院へ三名で、月額五拾五圓宛の學資金を支給し、卒業生は彼地に就職し帝國海外發展に尠からぬ貢献をなしてゐる。

學事獎勵 としては昭和二年本縣で陸



(町舞鶴區中市屋古名) 學大科醫屋古名

軍特別大演習の行はれた際の御下賜金四千圓及び同三年御大典の際の御下賜

金五千圓を基金とし、之に縣費六千圓を加へて學校生徒獎學資金を設定し、その利子を以て毎年度各中等學校卒業生の成績優秀なる者各一名に對して賞品を授與してゐる。

昭和二年度には縣費拾萬圓を以て教育者子弟獎學資金を設定し、教員の子弟で専門學校以上に學ぶ者に對し、毎年其の利子を以て獎勵金を支給してゐるが、現在其の受給者四十九名に上る。

近時社會環境の情勢に伴ひ、生徒兒童の校外生活を保護、監督並に善導する校外教護が極めて必要となつたので、昭和八年四月愛知縣中等學校々外教護聯盟を創設した。一ヶ年の經費は六千七百二十一圓で現在名古屋市内の中等學校四十校が之に加盟してゐるが、尙ほ豊橋市、岡崎市、知多郡半田町の校外教護組織並に縣下の各學校とも連繫を保ち好成绩を收めつゝある。

社會教育

近時社會の情勢は一般民衆の教育向上を促し、殊に動搖せる思想善導の要



(町代田區東市屋古名) 堂塾和昭縣知愛

筋混凝土造二階建て總延坪六百餘坪を有し、講堂、集會室等數多の施設を整

切なるものがあるので、本縣は縣民の組織的訓練によつてその實効を擧げんこ青年團、女子青年團、青年訓練所等の指導並に勞務者教育、教化事業、國民更正運動、映畫教育、圖書館等の獎勵に留意し、社會教育委員の制度を設けて専ら其の普及と徹底に努めてゐる。而してこれ等男女青少年團の幹部は素より社會教育の樞軸となつて活動すべき人物養成の目的を以て、昭和三年名古屋市東區田代町城山に愛知縣昭[○]和[○]塾[○]堂[○]を建設した。本館は鐵

へて専ら精神の修養を圖り、又宿泊の設備をも爲して寢食座臥の間にも自ら體驗修業を行はしめ、眞に社會教化の修道場として實績を擧ぐるにつとめてゐる。

少年少女團體 少年少女團體は大日本少年團聯盟加盟團體、少年赤十字團、宗教的青少年少女團體及び其の他の他の目的を有つ青少年少女團體に大別するのであるが、現在いづれの團體も發展の過程にあるので本縣は其の統制を圖り専ら普及に努めてゐる。

青年團 男子青年團の總數は三百九十四で内市部聯合青年團五、郡部聯合青年團十八、市部青年團百三十五、郡部青年團二百三十六に分れ正團員總數六萬九千餘名、團體關係者五千餘名を算へ其の經營費總額は二十萬九千餘圓である。而してこれ等の團體を以て組織する愛知縣聯合青年團は事務所を縣廳社會教育課内に置き専ら事業の實施と其の指導に當つてゐる。

女子青年團の總數は三百二十五で内市部聯合女子青年團三、郡部聯合女

子青年團十八、市部女子青年團五十、郡部女子青年團二百七十四に分れ、三萬九千二百十五名の正團員と三千人の團體關係者を包有してゐる。而してこれ等の團體を以て組織する愛知縣聯合女子青年團は事務所を縣廳社會教育課内に置き、女子青年修養團體として時代に順應する施設を爲し、専ら指導獎勵につこめてゐる。

青年訓練所 青年訓練所の總數は四百二十三で内公立四百七、私立十四、認定學校二に分れてゐる。

公立青年訓練所は實業補習學校を以て充當するもの五十二を占め、生徒の總數は入所資格該當者五萬二千四百四十六名に對し在所生徒四萬一千九百六十人で入所率は八〇%、私立青年訓練所に於ては入所資格該當者一千百二十二人に對し、在所生徒一千九百人で入所率は九七%といふ高率を示してゐる。

勞務者教育 本縣は昭和四年度より文部省と共同して勞務者輔導學級を開設し、既に二百五十餘名の修了生を出してゐる。又縣下の工場、交通勞務

者二十萬人に對する修養指導機關の一つとして日本勞務者教育協會愛知縣支部を設立し、會員相互の親睦と修養、啓發に専ら努力してゐる。

教化事業 本縣の教化事業は民力涵養、勤儉獎勵、教化總動員、公私經濟緊縮運動等を経て今次の國民更生運動に移つた。爾來縣は常に縣民の指導、教化に努め、民間に於いても之を強調する團體が漸次多きを加へ縣の施設と相俟つて近年著しき進展を示し、昭和三年には國民道德の向上を目的とする各種の團體が結合して愛知縣教化事業協會を設立し、全國の中樞機關たる中央教化團體聯合會に加入するに共に縣内各市町村を單位とする教化網の布設を企て、之が完成を得て教化網の組織的統制を圖り、互に連繫して堅實なる發達を期してゐる。

尙ほ昭和六年滿洲事變突發以來外交問題の重大性が擴大すると共に經濟問題及び思想問題も亦急迫し難局に逢着したので、茲に國民精神の振作、經濟生活の刷新を企圖し、政府の國民更生運動の方針に基き縣費を投じて浴く縣

民の教化運動を開始し、各種の事業を行つてその指導誘掖に腐心したので、現在に於いては都市教化の振張、農山村の更生方策樹立等縣下各地に於いて目覺しき更正運動の實効を收めてゐる。

婦人團體 從來本縣の婦人團體は愛國婦人會を別として、同窓會、社交團體、母の會、法話會、婦人農會、婦人消防隊等その數一百を算へその社會的活動は注目すべきものであつたが、時代の趨勢は更に婦人の覺醒とその協力を促し、從來の偏頗な特種的傾向を脱して普遍的運動の緊要を叫ばしめた結果、文部省の指示による家庭教育振興方策並に生活改善の實行を目的として婦人團體の教化網を組織するに至り、昭和八年には愛知縣聯合婦人會が創設された。

圖書館 本縣に於ける圖書館の總數は市立四、町立二十四、村立十七、私立二十一で、總計六十六を算へ、その藏書冊數の總計は三十一萬二千三百餘冊、内一萬冊以上を藏するもの公立六、私立三がある。

主なる圖書館

館名	所在地	創立年月	藏書冊數	閱覽人員	昭和八年 度像算
市立名古屋圖書館	名古屋市中區鶴舞町	大正四年五月	二二、二六九	三九八、九四三	四七、四六一
豊橋市立圖書館	豊橋市花田町	二一年	三三、九二五	七三、七四四	四、九九四
岡崎市立圖書館	岡崎市岡崎公園内	明治四五年七月	二九、三八	六六、〇五六	一〇、二五四
一宮市立圖書館	一宮市役所内	大正二〇・九	三、三五七	六二、八三	二、五三三
刈谷町立刈谷圖書館	碧海郡刈谷町	四二年	二五、八二〇	二〇三	一九二
名古屋公衆圖書館	名古屋市東區武平町	二一年	三三、二五五	七三、三五四	一一、七一五
瀧文庫	丹羽郡古知野町	四二年	二、六六七	四、八六九	五〇〇
岩瀬文庫	幡豆郡西尾町	明治四〇・二〇	八七、七九〇	三四〇	四、四〇〇

映畫教育 本縣は映畫の思想上に及ぼす影響の極めて顯著なるに着目し、早くより映畫を通じて社會民心の教化、娛樂の改善、思想の向上に努めてゐる。昭和八年度に於ける映畫回數は百回に及び良好なる成績を收めつゝ、ある

が、尙ほ昭和九年度より映畫班を設け統制ある組織と確固たる指導精神に基いて使命の完璧を期してゐる。

社會事業

本縣に於ける社會事業は從來の無統制、不活潑な慈善事業の域を脱し、大正八、九年の交愛知縣社會課及び名古屋市社會部の設置を契機として煥然組織的な活動に移り、漸次豊橋市、岡崎市等に普及すると共に各種の施設相次いで起り、更に關係法規の創定によつて一段の發達をみるに至つた。又宮内省有栖川宮家、内務省及び慶福會より優良團體に對して毎年多額の御下賜金並に助成金の下附せらるゝを始め本縣も亦之に補助金を與へ、他の私的助成機關と相俟つて夫々の施設に於いて指導、助成に格別の努力を拂つてゐる。是等統制機關として愛知縣社會事業協會がある。同協會は本部を縣廳社會課内に置き四十四萬五千餘圓の經費を以て庶務、連帶、融和、隣保事業、勞働

保護の五部を設け隣保館六、輕費診療所三、小兒保健所三、公益質屋一、不良住宅改良事業等を經營すると共に斯業の調査、研究、助成に努め遺憾なき機能の發揮を期してゐる。

兒童保護事業 妊産婦並に乳幼兒保健事業は兒童保護事業の樞軸をなすもので、其の施設としては日本赤十字社愛知支部産院、愛國婦人會愛知支部妊産婦保護事業、同兒童健康相談所、常設小兒保健所等がある。殊に常設小兒保健所は本縣に於いて極力之が設置を勸奨したる結果その新設をなすもの續出し、現在その數十五に達し一ヶ所に於いて一日二十名乃至三十名の相談指導に當つてゐる。

保育事業には常設保育園と季節託兒所がある。常設保育園は其の數四十八を算へ、一ヶ所に五十名乃至百五十名の保育兒童を擁して給食並に乳兒保育等を実施してゐる。季節託兒所は農繁期に於ける臨時保育施設として昭和二年創始以來普遍的發達を遂げ、各町村方面事業助成會、佛教會等競つて之が

經營に當り、現在その數三百四十九を算ふるに至つた。

感化事業には感化法に依る縣立愛知學園と私設の中央有隣學院がある。愛知學園は明治四十二年の創立で九十名の收容力を有し、兒童鑑別所を併設する外二十名の院外委託をもなし、其の規模の壯大と教護の實際に於いては全國感化院中屈指のものである。中央有隣學院は明治三十三年の創立で四十名の定員を有し、創設以來能く實績を擧げてゐる。尙ほ昭和九年一月少年法の實施に依り、少年審判所、矯正院の設置せられて以來私設保護團體亦續出の傾向を示し、感化法と相俟つて要保護兒童の教護に一段の進展が期待されてゐる。

兒童虐待防止事業は兒童虐待防止法施行に伴ひ縣下に一人の該當者なきを期し各方面協力して趣旨の徹底に努めてゐる。昭和八年度中に監護を加ふる就業兒童數は九百三十八名に達し、收容保護を加へたものは十八名である。

貧兒扶助は從來區々たる法令によつて實施されて來たが、昭和七年一月救

護法の施行と共に概ね之に統合された。公的救護施設としては愛知育兒院、名古屋養育院、東山寮があり、又私設育英事業には坂文種報德會、佛教感化救濟會がある。

兒童愛護運動は愛知縣兒童保護會が主體となつて斯業の誘掖、輔導、助成に努むると共に乳幼兒愛護週間、兒童榮養週間を催して兒童愛護思想の普及を圖つてゐる。

救貧事業

本事業は法令による公的救助と私的救助に分れる。

公的救助としては一般法である救護法の外に行路病者取扱法、軍事救護法、罹災救助法の特別法を設け、近時激増しつゝある要救護者に對して遺憾なき救濟を期してゐる。

私的救助の施設には服部公益財團外七團體があつて從來慈善團體としての活動を續けて來たが、方面制度網の擴充に伴つて助成會の組織の整備と共に之が中心機關となり、方面事業に示すが如き實績を擧げてゐる。

方面事業 本縣の方面制度は大正十二年名古屋市に八方面を設け委員四十名を囑託したのに始まり、漸次縣下全般に普及して其の紊れざる統制は諸般の實際的活動と相俟つて益々完備し、社會事業運動の中樞機關として目醒しき活動を續けてゐる。今其の組織並に活動の概況を示せば、設置行政區域は五市、百六十一ヶ町村に及び其の方面數二百二十、委員數一千十七名で昭和七年度に於ける取扱件數は總計三十九萬二千二百七十一件に上りカード登録世帶數は四千四百四十三戸、其の世帶員數一萬五千三百八十人である。

救療事業 恩賜醫療救護事業 は昭和七年八月農山漁村に對する救療費として拜受せる御下賜金に國庫配當金を加へ、縣營巡廻診療班を設けて醫療に便惡しき縣下六十八ヶ町村を順次回診し或は濟生會委託診療救急箱の設置をなすなご銳意聖旨に副ひ奉るべき施設を行ひ實績を揚ぐるに努めてゐる。又一般救療施設としては委託醫療、診療所、施療病院、特殊救療等がある。

經濟的保護事業 本縣に於いては公設市場二十九、公設食堂七、宿泊所

十四、公設質屋十三、公益浴場四の施設を爲し簡易低廉な衣食住の供給を圖つて生活不安を軽減し、又住宅供給事業として公營住宅四百四十三戸を建設して中産階級の住宅難緩和を圖るに共に住宅組合を組織するものに低利資金を貸與して簡易住宅の自主的建設を勸奨したる結果、現在組合數九十六、住宅數九百七十一を算ふるに至つた。此の他名古屋市中區下奥田町に於いて一、百八十八萬餘圓の經費を以て木造並に鐵筋コンクリート建住宅、ブロック建獨身アパートを建設し、不良住宅地區の改良を行ふなご綜合的事業を營みつゝある。

隣保事業 本事業は大正十三年に始まり其の施設は現在七ヶ所に及んでゐるが、内六ヶ所は愛知縣社會事業協會の經營で主として幼兒保育、夜學、講演、講習會、人事相談、貯金獎勵、各種娛樂の供給等に努むる他、各地區の事情に應じて夫々特殊な事業も營み、或は對稱者の福利増進に或は融和促進に活潑なる活動を爲しつゝある。

勞働保護事業 管内の失業者が累年遞増の趨勢にあるに鑑み之が對策として、職業紹介事業、失業應急事業、授産事業、小資融通等多方面に亘る救済施設を講じてゐる。

職業紹介事業の施設としては一般職業紹介所十、勞働紹介所七、給料生活者職業紹介所二、少年職業紹介所五を算へ、専ら名古屋地方職業紹介事務局に於いて圓滑なる事業の運営、指導、監督に當つてゐる。

失業應急事業には失業防止委員會があつて各方面の士を委員に網羅し權威ある諮問機關として活動を續けると共に本縣並に名古屋市、豊橋市等に於いて河川の改修、道路舗装、下水工事、軌道改修等の應急事業を起し専ら勞働者の救済に努めてゐる。

地方改善融和事業 地方改善事業は縣下の要改善特殊地區三十八ヶ所に對して縣費補助金を交付し、事業は専ら愛知縣社會事業協會をして行はしめてゐる。事業の主なるものは前記の要改善地區に於ける隣保館の設置、地區

の整理、副業の奨励、農事改良施設、集合、教化施設、住宅供給等である。此の他融和部を設けて因襲的偏見の除去に努めてゐる。近年本縣の經濟的膨脹著しきため、管下の各都市に憧憬して渡來する朝鮮人は累年増加し、現在その數約一萬七千人に達してゐる。然るに就業する者はその半數に達せざる現狀にあるので本縣はその保護と生活の安定を圖つて内鮮融和の實績を擧げんと、各關係團體に補助金を交付し、無料宿泊所、職業紹介、勞働夜學校、無料診療、普成學校、人事相談、簡易住宅の建設等の諸事業を行はしめ専ら其の救済、保護の途を講じてゐる。

釋放者保護事業 釋放者、起訴猶豫、執行猶豫等の處分を受けた者に對し、愛知自啓會、知多信行團、中京保護會等が裁判所、刑務所等と連繫を保ち、直接或は間接に夫々適切なる方途によつて庇護、救済を加へてゐる。

産業

本縣は氣候温和で地理上、交通上、本邦中樞の地を占めてゐる。北東部に起伏する山脈は尾張、三河の兩平野をいだし、平野はその間に點在する幾多の沼池と河川の貫流に潤されて豊穰である。南は海洋に瀕して各種の海産物に富み、商工業亦近年著しく活況を呈し、今や名實ともに中部日本の富庫である。

昭和七年に於ける本縣の生産總額は七億四千三百七十七萬八千九百九圓で昭和七年末現住戸口一戸當り一千三百五十六圓で、之を前年に對比すれば總價額に於いて八千三百七萬五千五百五十二圓、一戸當り百四十一圓の増加である。その生産狀態を概擧すれば次の如し。

産業別	生産總額
農産	九六、九六五、〇三四 _円
畜産	一五、四一二、六八五

林産	鑛産	水産	工業	總額
二、一〇〇、〇四四	一、九四七、九六七	一一、三一三、〇七七	六一六、〇三九、三〇二	七四三、七七八、一〇九

農業 本縣の耕地面積は昭和七年末現在に於いて田十萬百二十七町步、

畑六萬三千百七十二町步、計十六萬三千二百九十九町步で本縣全面積の三割三分を占め、農家戸數十九萬七千二百九十二戸に對し一戸當り田五段一畝、畑三段二畝計八段三畝步となる。農家戸數中專業農家は十四萬四千七百三十三戸、兼業農家は五萬二千五百五十九戸であるが内自作農六萬七百五戸、小作農四萬百六十五戸、自作兼小作農九萬六千四百二十二戸である。

農業組織は從來稻作が主で、畑には雜穀の外甘藷、棉、葉藍等栽培されてゐるが、養蠶業の發達に伴ひ明治三十年頃より棉、葉藍の栽培地は殆んど桑園

置き換へられ、同四十年頃より蔬菜、果樹、苗木、農産加工等が漸次發達

の傾向を示した。然るに歐洲大戰後經濟界の好況は勞賃の暴騰となつて農業生産の主要素たる農村勞力缺乏の結果、勞費の節約、勞苦の軽減が叫ばれ、所謂經營の機械化を現出したのである。其の後經營の複雑化と共に生産物の處理、販賣方法等に於いて一段の進歩を遂げ各地に合理的多角形の農業が行はるゝに至つた。

農産物の主要なるものは米と麥であるが、米の産額は最近五ヶ年の平均年額二百六萬八千四百二十九石で、縣内消費額の三百七萬二千餘石に對して百萬四千餘石の不足を生じてゐるので、本縣は



愛知縣安城農事試驗場

之が優良品種の普及を圖り、農事試驗場に原種圃八町六段を設けて獎勵品種九種を栽培し、其の生産種子を農事改良實行組合等の共同採種圃用として無償配布してゐる。

麥も亦米と同様に縣内の消費額百十八萬餘石に對して生産額僅かに六十五萬八千餘石といふ状態なので本縣は國策に順應して茲に増殖獎勵計畫を樹立し、昭和七年度より五ヶ年計畫を以て一萬町の單位面積收量に於いて一割五分五ヶ年後に於いて四十七萬石の増加を見んと原種圃段別四町八段に獎勵品八種を栽培し、其の生産種子を無償で配付してゐる。

園藝業の生産額は一千四百餘萬圓に達し、農家經濟上重要な位置を占めてゐるが、その種別の主なるものは蔬菜、果實、種苗、花卉、觀賞植物等で、殊に蔬菜の内の菜菔、西瓜、甘藷、トマト等何れも百萬圓を超ゆる産額である。

肥料消費狀況は最近五ヶ年の平均年額二千四百四十五萬圓で農家一戸當り百二十四圓となつてゐるが、内金肥は一千四百三十一萬圓で全國の首位を占

め、自給肥料は一千十三萬圓である。本縣は金肥の節減による農村經濟の維持、増進の見地より自給肥料中最も重要な堆肥、綠肥の増産を奨励し、自給肥料に於いて約五割の増加を期し、各種施設を講じて目的達成に努めてゐる。

其の他本縣は優良農具の利用、農業經營の改善を圖り、關係各課始め農事試験場、種畜場、農産物検査所等をして實地指導、補助金交付、種苗の配付等を行はしむる外、各級の農會、産業組合等と提携して専ら諸般の改良、増殖に努力を拂つてゐる。而して改良實行組合中成績優秀なものを農村共同經營組合に指定し、無利子の資金を貸與して經營に必要な設備を行はしめ、經濟更生の理想邑の建設を期してゐる。

本縣はまた自力更生運動に呼應して昭和七年農山村經濟更生委員會を設置すると共に縣下の市町村に對し市町村經濟更生委員會の設立を勸奨したる結果、逐次之が設立を企圖する者多く現在に於いては大部の計畫樹立を完了す

るに至つた。

更に小作爭議の緩和解決策として自作農創定事業を企圖し、全國に率先して大正十一年より資金の貸付を開始し、爾來十年間に三千九百九十六人に對して三百一萬圓を貸付け、其の創造したる面積は田六百三十二町、畑百七十七町、宅地一萬二千坪に達し成績頗る良好である。

副 業 本縣に於ける各種副業は適切なる研究によつて逐年發達し、農村經濟の上に相當重要な地位を占むるに至つた。其の主なるものは薬加工品六十七萬圓、大根切干三十六萬圓、養兔二十五萬圓、トマト加工品十五萬圓等で之を地方別に示すと、平坦地方に於いては薬加工、漬物、大根切干、トマト加工、製茶、養蜂を主とし、山間部にては椎茸、柿加工、竹細工が最も盛である。

大根切干の製造は中島郡、碧海郡、知多郡に多く、丹羽郡、西春日井郡之に次ぎ、其の生産額は三十六萬圓で全國の首位にある。

その種類の主なるものは千切、割干、長割干、花丸、角切、輪切等で販路は東京、大阪地方を始め遠く大連方面にまで出荷されてゐる。

かくの如く副業の経営が逐次發達して複雑を極むるに至り、本縣は成るべく原料の豊富に得られ易き地方に集團的組合組織に依る副業の共同施設を奨励すると共に副業品の検査、販賣處分、生産の向上なきに専ら努力を續けた結果、従來の投機的な副業は漸次衰退して彌々堅實なる發達に向ひ前途囑望し得べき趨勢にある。

蠶絲業 桑園は昭和七年現在に於いて總段別三萬三千八十四町で耕地面積の二割に當り、養蠶戸数は九萬四千八十六戸で農家戸数の約五割を占む。主なるもの、生産額は繭五百四十三萬八千貫、生糸八十八萬八千貫、玉糸四十四萬七千貫、製糸屑物三十九萬六千貫、蠶種一千八百八十六萬七千貫、桑苗三千五百二十七萬九千本で玉糸、桑苗は府縣中第一位、生糸は第三位に當り他は何れも第二位を占めてゐる。

桑苗の生産額は一時、一億本を超え全國の過半数を占めたことがある。斯く盛大を致したことは本縣の風土に負ふは勿論であるが、接木法が本縣の人によつて創始せられたことも重大なる原因である。然るに近時各府縣に於ける自主的生産の影響を受けて生産額の減少を見るに至つたが、尙ほ府縣中の首位を占め全國の主要養蠶地を始め遠く滿洲支那にも輸出し依然桑苗界を風靡してゐる。

栽桑は昭和八年に於ける養蠶實行組合單位にて最高五十七貫、養蠶者個人單位で最高七十五貫といふ全國稀に見る段當收繭の記録を擧げてゐるが、縣下全桑園の平均段當收繭量は十八貫五百匁といふ低率である。これは桑園が廣きに過ぎてその経営が粗放に陥つた結果に外ならないので、本縣は昭和九年度より五ヶ年計畫を以て平均段當收繭二十四貫を目標に桑園能率の増進に努めてゐる。

蠶種製造は昭和七年現在に於いて製造者一人當り三十三萬四千蛾である。

而して近時蠶種界を風靡する多[○]絲[○]量[○]系[○]黃[○]繭[○]種[○]は實に本縣に於ける創造であり

其の經營規模の壯大と多數の分場を有つ
こゝは本縣の特色である。



蠶種製場造場年額一千六百七十七萬
(村來區郡井日春東)

の處分は極めて圓滑に行はれ全國有力製絲家の購繭地盤を以て目覺しき進出

を見せてゐる。昭和七年度に於ける取引方法の割合を示せば、生繭取引七割五分、乾繭取引二割五分でその處分方法は組合製絲供繭一割、繭市場問屋取引二割、特約取引三割五分、製絲家直接取引其の他を合せて三割五分といふ狀況であるが、近時此の取引方法を一層合理化する爲め産繭の規格統一と繭取引の合理化計畫を樹立し、縣下に三十六箇所が集團的指導地帯を指定して各地帯を中心とする附近業者の指導獎勵につまめてゐる。

養蠶實行組合の總數は三千四百四十一で全養蠶戸數の九割四分を占め、桑園の整理改善、育蠶技術の向上、産繭取引の合理化なきに主力を注いでゐる。本縣は之を指導する専任技術員百五名を配置して斯業に必要な事業を指定しその實行を促してゐる。

製絲業は明治二十七八年戰役後諸事業の勃興と共に俄然隆盛に赴き所謂器械製糸工場の經營を見るに至つた。越えて大正五年頃より更に一段の進歩を示し、尾張に於いては名古屋市より以北に、西三河に於いては岡崎市より以

西に、東三河にては豊橋市を中心として南北に著しく發展し、本縣工業中重要なる位置を占む。

就中名聲を博する玉糸製絲は豊橋市を中心として東三河地方に最も盛である。製絲の生産總額は四千五百九十一萬九千七百三十一圓で内器械製絲三千四百六十二萬二千九百五十六圓、座繰製絲九十四萬一千五百二十一圓、玉糸製絲一千三十五萬五千二百五十四圓である。本縣は蠶業取締所を縣廳内に置き十三ヶ所にその支所を設くる外蠶業試験場三、製絲試験場一、繭檢定所一を設置して蠶種の検査、蠶糸業者の取締、原蠶種病毒の絶滅、各種の試験研究、講習會の開設、原蠶種の配付、繭の鑑定、取引の圓滑等に専ら努力してゐる。

組合は蠶絲業組合法に依る組合と重要物産同業組合法に依る組合とに分れ、前者には斯業の最高機關である養蠶業組合聯合會を始め養蠶實行組合を組織細胞とする養蠶業組合、製絲業組合、産業組合製絲組合、蠶種業組合等

あつて機關雜誌の發行、優良養蠶業者の表彰、生産品販賣の斡旋、品質改良なごに最も力を注いでゐる。後者には桑苗同業組合聯合會、桑苗同業組合、三遠玉絲製造同業組合、東三繭絲問屋同業組合、東三蠶種販賣同業組合等あつて生産品の改善、販路の擴張、苗の検査、蠶種の保護なごに格別の努力を拂つてゐる。又準則組合には桑市場組合三、繭絲問屋組合一、繭絲業組合一がある。

愛知縣蠶絲業聯盟會と愛知縣養蠶指導者協會は何れも事務所を縣廳蠶絲課内に置き斯業全般の連絡協調並に養蠶業の調査研究に努めてゐる。

畜産業

本縣の風土は家畜、家禽の飼養に適してゐる。其の主なるものは牛馬豚鶏で昭和八年の統計に依るに牛は二萬二千百六十八頭で全國中第二十六位、馬は九千四百十六頭で全國中第二十九位に當り、孰れも不振の域を脱しないが、鶏は成鶏三百三十四萬六千七百四十五羽、雛二百二十八萬七千四百六十五羽、産卵五億二千三百四十九萬六千九百九十七個、此の總價額は

一千六十二萬七千九百九十三圓に達し全國の首位に在る。



産卵記録保持鶏(愛知県知事種畜場分場) 産卵記録保持鶏(愛知県知事種畜場分場)

縣の飼養總戸數は十萬五千戸で府縣中第七位に過ぎないが、その經營と規模

以上の畜産と農業との關係を見ると昭和七年末現在に於いて農家百戸に對する牛馬數は一六・四九頭、成鶏數は一、七四七・四二羽で、又耕地百町歩に對する成鶏數は二、〇五一・一二羽に當る。

養鶏は尾張全部と三河南部に於て盛であるが、尾張部に於ては明治五年名古屋の人海部正秀の研究によつて得た名古屋交趾を専用し、三河部に於いては名古屋交趾、アングルシャン、ミノルカ等を混用してゐる。昭和七年の調査に依れば本

は頗る壯大で全國平均飼養戸數一戸當り十七羽なるに對し本縣は其の三倍即ち五十一羽に達し他府縣の追隨を許さず、而かも近年各都市の著しき膨脹に伴つて卵肉の需要は逐年増加し養鶏王國としての聲價は益々昂められつゝある。

以上畜産業に對する指導獎勵施設として本縣は種畜場を設置し斯業に關する知識の普及と改良、増殖を圖り健全なる其の發達の助成につとめてゐる。

組合は郡市畜産組合十六、縣聯合會一を有し、技術員を配置して専ら其の勸奨につとめてゐる。

林業 林野は三河の大部と尾張の北部を合せ國有林一千三百町、御料林二萬三千二百町、公有林五萬二千五百町、社寺有林六千四百町、私有林十八萬四千町、合計約二十七萬町歩で縣下全面積の約五割五分を占めてゐる。これ等の林野は概ね諸川の水源をなし、往時は鬱茂の深林であつたが、其の後林政の弛頹と共に濫伐頻りに行はれて次第に荒廢に赴き、而かも地質が比較

的脆弱なため土砂崩壊して旱魃氾濫等の被害多く、殊に庄内川、矢作川、天白



(前) 山堂保伊字大村見保郡茂加西 前行施事工防砂

によると砂防並に荒廢地復舊工事施行面積は六千五十町歩で此の經費四百七

川、境川の上流地方に於いて最も慘況を呈した。茲に於いて本縣は治水上、産業

上寸時も忽せにすべからざるを思ひ、明治三十三年以來毎年十數萬圓を投じて砂

防並に荒廢地復舊工事に着手し、同時に私有林に對する補助獎勵の方法をも講じ

て専ら復舊工事の實行を促した。その効果近年になつて著しく顯はれ廣大な荒

廢地も漸次綠化して水源を涵養し、林業思想の普及すると共に造林治水は殆んど

完備するに至つた。昭和七年度末の調査

十八萬九千八百圓、補助事業施行面積は三百七十三町歩で、之に對して交付



(前) 同) 後直行施事工防砂

せし補助金は十四萬二千二百餘圓である

また渥美郡に於ける太平洋沿岸及び知多郡内海町附近は飛砂、潮風の爲め保安

上、産業上に被害が頗る多いので本縣は政府の計畫に順應して昭和七年度より海

岸砂防造林事業を開始し、年々之を繼續して防備施設の完成を期してゐる。

林業地は南設樂郡、北設樂郡、東加茂郡、西加茂郡、八名郡、額田郡で、昭和七年に

於ける生産總價額は二百十萬圓に達してゐる。其の内主なるものは木材八十五萬

四千圓、薪材四十二萬八千圓、木炭四十三萬五千圓、竹材六萬七千圓である。



(前 同) 相林ノ後年八十行施事工防砂

を以て縣有林地内に林道を開設すると共に市町村に對しても補助金を交付し

然るに本縣は大都市を包容する關係上木材の需要極めて多く、其の生産は僅

かに縣下需要額の二割を充すに過ぎないので本縣は生産の發展に資すべく林産物縣營検査所を設置して生産物の規格統一出荷の統制、取引商品價値の向上を圖り生産者並に一般消費者相互の利益増進に努めてゐる。尙ほ近時山林の不況は益々深刻を極め甚だしい窮乏状態にあるので更に林利の向上に山村民の匡救を圖つて林道の開設、林産物運搬路の整備等に力を効し、國庫より事業費の四分三の助成金をうけて昭和七年度より三ヶ年の計畫

て鋭意事業の促進を圖り、その成果を數年の後に期してゐる。



(村茂賀郡茂加東) 道 林 内 林 有 縣

つぎめてゐる。

鑛 業 本縣の鑛業は昭和七年の調査に依れば設定試掘鑛區數二十三で其の面積は四百八十一萬四千餘坪、探掘鑛區數は五十九で其の面積九百八十萬

昭和八年度に於いては經費十萬八千二百餘圓を以て林道二十九里十四町を竣工した。此の他公有林並に私有林に於いて造林整理統一、防火線の改設、漆栽培組合の設立等をなすもの或は山林會、林業關係の同業組合等に對して本縣は夫々補助金を交付し督勵して實績を擧ぐるに

九千餘坪であるが、内三十六鑛區は現在採掘を休止してゐる。之を鑛種別に示せば試掘に於いて、亞炭鑛十二、滿俺鑛四、金銀鑛二、金銀銅鉛鑛二、金銀銅鑛一、金鑛一、金銀銅硫化鐵鑛一で、採掘に於いては亞炭鑛五十五、滿俺鑛二、金銀銅鐵滿俺鑛一、安質母尼鑛一である。

由來本縣の鑛業は地質的に恵まれざる爲め概して不振の状況であるが、獨り亞炭のみは頗る盛大で全國に於ける重要亞炭鑛山五の内三を占め其の產出額は全國の三割強である。

炭 鑛 名	所 在 地	昭 和 七 年	昭 和 六 年	昭 和 五 年
芝	東春日井郡高藏寺町	二一、二五三 <small>噸</small>	二二、六八九 <small>噸</small>	二〇、六〇三 <small>噸</small>
長	愛知郡長久手村	八、六六一	八、一〇四	八、七四七
高	同 猪高村大字高針	六、二〇九	六、五一九	七、五二一

水産業

本縣に於ける水産業者四萬二千七百餘人の内漁業に従事するも



打 瀬 網 漁 船 (賣 飯 郡 三 谷 港)

のは二萬九千六百餘人であるが、多く半農半漁で、專業者は一萬二百餘人に過ぎない。水産業の主なるものは漁撈、養殖、水産製造で昭和七年の調査に依れば沿岸漁業五百三十九萬六千餘圓、水産養殖二百十七萬六千餘圓、水産製造二百八十九萬八千餘圓、遠洋漁業四十五萬五千餘圓で其の他を合せ生産總額一千百三十一萬三千餘圓となる。

漁業は打瀬網、機船底曳網、角建網、地引網、鰯刺目網、蝦流網、延繩等其の種類は頗る多いが、就中打瀬網漁業は沿岸漁業の中樞をなすもので、その船型は特異の發達を遂げ愛知打瀬型と稱してその名は全國に知られてゐる。これは

凡そ百三十年前房總地方より傳へたと謂はれ、當初は知多郡龜崎地方に多く、又漁場は沿海に限られてゐたやうであるが、明治五六年頃から伊勢灣に、時には渥美の外灣にまで進出漁従し、現在に於いては渥美郡の外濱を除く他縣下たるところにこの漁船を見る。而して近年螺旋推進器の普及と共に之を備付くるもの續出し、本漁業に従事する漁船二千餘隻の中既に之を備付けたるもの千二百餘隻に達し、その活動が著しく敏活となり勢ひ漁場も擴大し、蝦、鯛、鯉、烏賊、藻魚等一ケ年の漁獲高は約二百萬圓を超えてゐる。

河川漁業に於ける産額は約四十四萬圓、主なるものは鮎と鰻であるが、近時水力電氣事業の勃興と共に各所に水力發電用の堰堤が築設されて魚族の溯上を妨ぐるため、本縣水産試験場に於いては年々琵琶湖産小鮎數十萬尾を放流し、又各種の河鱒卵の人工孵化をも行つて各河川に放流し、其の成績は孰れも概して良好である。

水産製品の主なるものは蒲鉾、竹輪、乾海苔で、蒲鉾、竹輪の産額は百十

萬圓を超え乾海苔と共に本縣水産製造の双壁をなす。その製造地は名古屋市、豊橋市、寶飯郡三谷町で、その販路は縣内に止まらず多く關東、關西方面に移出されてゐる。海苔養殖は近年之に従事する者著しく増加するに鑑み、本縣はその生産増加と品質向上に留意し全國に先驅して製品の縣營検査を實施したるため、愛知海苔の品位は著しく昂まり聲價は益々全國に喧傳せられつつある。而してこの養殖の行はる、沿岸の干潟は、三千萬坪に余る全國稀に見るもので海苔の他牡蠣、灰貝、蛸、蛤等の養殖にも適してゐる。本縣は是等各種の試験研究並に指導の目的を以て大正十一年愛知郡下之一色町に水産試験場養殖出張所を設置した。

淡水養殖業は明治四十年頃より著しく發達したが、養魚池による淡水養殖は全國の第二位を占め豊橋市、渥美郡、碧海郡、幡豆郡、海部郡等に最も盛である。其の主なるものは鰻、鯛、鯉であるが、鰻の養殖場は其數二百六十五の多きに達し、其の收穫高は六十五萬圓に上る。初め之に使用せる種苗は

ビリと稱する二匁乃至六匁大のものであつたが、養殖技術の進歩によつて近年は体長二三寸のシラス鰻を沿岸部に捕獲して之を種苗とし良好なる成績を擧げてゐる。此の他特に擧ぐべきものは海部郡彌富町に於ける金魚の養殖である。

愛知水産會は海部、愛知、知多、碧海、幡豆、寶飯、渥美の各郡水産會を以て組織し、専任技術員を配置して水族の蕃殖、改良を圖ると共に講演、講習會の開催、會報の發行などの施設を行つて専ら知識の開発につとめてゐる。

漁業組合は河川、池沼を漁場とする組合二十一を加へ總計百三十三で組合員の總數は約二萬三千人を超え、一ヶ年五十二萬圓の經費を以て共同の利益増進、漁獲物の共同販賣、漁業用品の共同購入などの事業を行ひ専ら斯業の發達に努めてゐる。是等組合の内統制施設に於いて最も完備するは愛知郡下之一色町の組合である。

同業組合には三河乾海苔と彌富金魚の二組合がある。三河乾海苔同業組合

は豊橋市を中心として明治四十五年設立されたもので約四千人の組合員を擁し水産界に盡す功績が尠くない。又彌富金魚同業組合は昭和二年の設立であるが、爾來養殖の改善に不斷の努力を続け克く今日の盛大を招致した。

工業 本縣の工業は之を大別すれば繊維工業、機械器具工業、化學工業、飲食物工業、雜工業の五大工業となり昭和七年度に於ける生産總額は六億一千六百三萬九千餘圓に達してゐる。

繊維工業 紡績業、織物業、染物業、莫大小、其の他

機械器具工業 織機製造業、車輛製造工業、時計製造業、金屬製品工業、軍需品工業、其の他

化學工業 陶磁器製造工業、土管瓦煉瓦製造工業、七寶製造業、セメント製造業、人造肥料製造工業、漆器、其の他

飲食物工業 醸造業、製粉業、漬物類、其の他

雜工業 其の他

紡績業は工産中重要なるもので、昭和七年現在に於ける生産額は八千七百

九十六萬五千八百七十三圓（紬紡績ヲ除ク）に上る。之を種別に示せば

種別	工場数	男女職工数	生産額
綿糸紡績	二三	一六、八一四	六五、五〇五、一二四
毛糸紡績	七	四、五四二	二〇、四四〇、七一七
絹糸紡績	三	一、二六九	二、〇二〇、〇三二

而して工場の過半数は名古屋市に在るが他は岡崎、一宮の兩市及び東春日井、知多、碧海の三郡に散在する。尙ほ縣内各地の家内工業組織による小規模工場の生産額を合すれば優に一億圓を超える。

織物業は纖維工業中最も重要なもので昭和七年現在に於ける機業場数は大小合せて三千九百八十八、織機臺数は力織機七萬六千七百七十八、手織機三千八、内毛織力織機一萬二千九百八十で之に従事する男女職工總数は四萬九千八百五十人、其の生産額は二億三千四百八十一萬一千二百四十六圓に上る。

る。



(市宮一) 況狀業作物織毛

種別に之を示せば

種別	場数	職工数 男 女	生産額
綿織物	一、七七四	三〇、〇六八	一三六、八九六、八三四
毛織物及其交織物	九四	一六、〇八二	八四、二〇六、一三〇
絹織物及其交織物	一、二六二	三、六七三	一三、六三六、五八三
麻織物及其交織物	八	三	一七、七〇九
人絹織物	一	五五三	九三六、〇二七

綿織物は輸出向廣幅、知多晒木綿、岡木綿、三白木綿、縞木綿等であるが、輸出向廣幅は主として名古屋、岡崎の兩市及び知多、丹羽、幡豆の三郡に於いて生産し、又毛織物類は名古屋市及び海部、中島の二郡に盛て其の生産額は全國

の五十六%を占め本邦に於ける一大生産地をなす。絹織物類、麻織物類は丹羽、葉栗、中島の三郡を主産地とする。

染物業は昭和七年現在に於いて漂白染色業場數一千二百二十、男女職工數五千八百九十人で生産額は一千百三十一萬九千五百五十八圓に達し、其の主なるものは織物原料の染糸、綿布、毛織類の無地染絞及び捺染等である。

莫大小の製造地は名古屋市、一宮市及び西春日井郡を主とするも大部分は名古屋市に於いて生産される。昭和七年の調査に依れば、製造場數五百八十一、男女職工數三千五百二人で其の生産額は七百五十萬九千五百九十八圓に上る。

機械製造業は専ら名古屋市及び碧海郡刈谷町の十八工場に於いて一ヶ年一萬一千二百餘臺、價額にして四百萬三千八百圓を生産してゐる。工場の主なるものとしては豊田式織機株式会社、豊田自動織機株式会社、野上式織機株式会社があり、近年織物業の發達と共に益々多望な前途が期待されてゐる。

車輛製造工業の主なるものは鐵道用各種車輛と自轉車で、車輛工場の中最大なるものに日本車輛製造株式会社がある。本工場は本邦に於ける主要工場として聞え、一ヶ年の生産額は三百萬圓に上る。又縣下に於ける自轉車製造は名古屋市に最も盛であるが、其の部分品の製作は縣内各地に行はれ一ヶ年の産額は十萬臺、價額にして五百萬圓を超えてゐる。而して製造工場中最も著名なるは株式会社岡本自轉車自動車製作所である。

時計製造業は明治十七八年の頃、岡崎の人中條勇次郎と名古屋の人水谷駒次郎が共同して二個の掛時計を製作したこゝに端を發し、今や本邦屈指の時計製造工業地として名古屋時計の名は各地に謳はれてゐる。昭和七年の調査に依れば工場數十八、生産高四十四萬三千五百五十九個、其の價額は百七十一萬八百六十八圓に上る。工場中著名なるものとしては尾張時計株式会社、愛知時計電機株式会社瑞穂工場、明治時計製造合資会社がある。

金屬製品工業の主なるものは鐵、銅、眞鍮、青銅、アルミニウム、アン

チモニー製品等で、其の産額は百餘萬圓に上つてゐる。

軍需品工業は生産額二千三百萬圓を超え、主なる工場としては三菱重工業株式會社名古屋航空機製作所、愛知時計電機製造株式會社及び株式會社大隈鐵工場がある。

陶磁器製造工業の盛なることは本邦第一で、其の生産額は三千五百萬圓に達し全國生産額の過半数を占め、内地は素より遠く海外各地に供給してゐる昭和七年の調査に依れば工場數一千九百四十八、職工數一萬六千八百餘人に達し、其の主要生産地は名古屋市、瀬戸市であるが、此の他東春日井郡品野町、知多郡常滑町、丹羽郡犬山町にも亦盛である。著名なる工場としては名古屋市に日本陶器株式會社がある。

土管、瓦、煉瓦製造工業の内土管類は知多郡常滑町を主産地とし、煉瓦、瓦類は碧海郡高濱町、大濱町、新川町を主産地とし其の總生産額は三百六十餘萬圓に達してゐる。

七寶製造業は生産額少なく、價額にして僅かに三十萬圓に止るが、その創始は比較的古いこゝで、本縣の特産品として聲價を昂めてゐる。

セメント製造工業は近年土木事業の進歩と共に其の需要逐年激増し、昭和七年に於ては生産額十二萬二千三百二十三種、價額にして二百三十四萬四千二百三十八圓に達した。製造工場の主なるものに豊國セメント株式會社名古屋工場、小野田セメント株式會社愛知支店、三河セメント株式會社がある。

人造肥料製造工業の主なるものは鉛室硫酸、一五過磷酸、配合肥料及び新製特許過磷酸等で生産額は百萬圓に達してゐる。主なる工場としては大日本人造肥料株式會社名古屋出張所がある。

漆器は主として一閑張であるが、其の大半は名古屋市に於て製せられる。昭和七年に於ける生産額は四百二十一萬一千七百四十九圓に上る。

其の他の化學工業は石鹼、藥品、硝子、護謨等と枚舉に遑なく、其等製品の年産額五千萬圓に垂んじしてゐる。

醸造業の主なるものは清酒、味淋、麥酒、酢、溜、味噌等で其の生産總額は二千七百四十餘萬圓に達してゐる。

清酒は中部銘酒と呼稱せられて夙に名聲を博し、縣下各地に於いて一ヶ年十二萬餘石、價額にして九百十餘萬圓を醸造し、麥酒は大日本麥酒株式會社名古屋工場及び日本麥酒鑛泉株式會社半田工場に於いて醸造せられ、其の生産額は八萬一千五百石、價額にして六百三十萬圓を超えてゐる。

醬油及び溜は縣下各地に於いて醸造せられ其の年産額八萬一千餘石、價額に於いて六百二十萬圓、又味噌の年産額は一千二百三十餘萬貫、價額にして三百六十萬圓に達し知多郡及び名古屋市を主産地とするが、岡崎には特産物八丁味噌がある。酢は知多郡に最も多く名古屋市之に亞ぐ。昭和七年の調査に依れば其の産額は四萬八千四百五十七石、價額にして三十七萬八千九百二十五圓となる。

製粉業は近時人口の増加と生活程度の向上に伴ひ各種製菓、麵麩の需用漸

増と共に逐年盛大に赴き、昭和七年に於いては其の産額一億五千餘萬斤、價額にして九百五十餘萬圓に達した。其の主なる工場は日清製粉株式會社名古屋工場、日本製粉株式會社名古屋工場等である。

漬物類の内澤庵漬は名古屋を主産地とし古來特産として知られてゐる。昭和七年に於ける此等生産品の價額を示せば澤庵漬六十四萬二千七百三十九圓粕漬類七十一萬二千四百十七圓（越瓜、守口大根を含む）、福神漬四十三萬圓等で其の他を合せ總生産額百七十八萬五千五百五十六圓に達してゐる。

雜工業としては木製品の外三十餘種、其の主なるものは文房具、皮革製品、煉炭炭團、玩具、刷子、刷毛、洋傘、履物、紙製品、帽子、蚊帳、ベニヤ板、醫療材料品で昭和七年度に於ける其の生産總額は六千二百萬圓に達してゐる。

本縣は是等工業の助長獎勵施設として工業試験場、染色試験場、毛織物検査所を設置してゐる。

工業試験場は名古屋市に在つて専ら工業に關する試験研究を行つてゐる。染色試験場は中島郡大和村に尾張染色試験場を、寶飯郡三谷町に三河染色試験場を設け、紡織、圖案に關する研究調査を行ひ工業の改善、發達及び技術の指導に努めてゐる。

毛織物検査所は縣廳内に本所を置き、支所を名古屋市、一宮市及び海部郡津島町の三ヶ所に設けて生産品の検査並に品質の向上を圖つてゐる。

組合は工業組合三十三の外、同業組合準則に基き設立された組合にして工業に關するもの七十一（内聯合會一）で組合員の總數は一萬三千餘名に達してゐる。

商業 本縣の商業は古くから發達し、縣下に散在する往時の城下町、宿驛を始め瀬戸、常滑に於ける窯業地、一宮、枇杷島の市場等既に徳川時代に商業制度の施設を有してゐたが、明治維新以後は漸次舊態を脱して益々發達を遂げ、殊に近時の交通、通信機關の整備は商取引を著しく敏活ならしめ工

業の隆盛と相俟つて今日の盛況を見るに至つた。

會社は名古屋市始め各都市に點在し、昭和七年末現在に於いては其の數五千四百二十七に達してゐる。之を業種別に見れば農林畜産業七十四、水産業十一、礦業十二、工業二千二百二十五、商業二千九百七十六、運輸業二百二十九で其の資本額總計は七億七千七百七十七萬圓に上る。

取引所は株式一、米穀三、綿糸布一で、綿糸布を除く他は何れも株式組織である。

名古屋株式取引所は資本金六百萬圓、拂込額三百二十七萬五千圓で上場銘柄現時長期六十五種、短期二十五種に及び、一般取引員二十五名、短期取引員四十名計六十五名。

名古屋米穀取引所は資本金三十萬圓全額拂込にて組合員二十二名。

岡崎米穀取引所は資本金十萬圓全額拂込にて取引員十四名。

豊橋米穀取引所は資本金十萬圓で取引員十四名。

名古屋綿糸布取引所は資本金二十六萬圓、現在會員三十四名。倉庫業は名古屋市始め豊橋市、岡崎市、一宮市等の主要都市に於いて商工業の進展と共に發達し、近時は全國優秀なる倉庫業者の支店、出張所等激増して面目を一新した。其主なるものについて概舉すれば

商 號	所 在 地	資 本 金
東洋倉庫株式會社	名古屋市中區天王崎町	六、〇〇〇、〇〇〇圓
東神倉庫株式會社名古屋出張所	同 南區千代町二ノ割	一五、〇〇〇、〇〇〇
川西倉庫株式會社名古屋出張所	同 中區納屋町三丁目	三、〇〇〇、〇〇〇
名港倉庫株式會社	同 一丁目	二、〇〇〇、〇〇〇
豊橋倉庫株式會社	豊橋市花田町	一〇〇、〇〇〇
東三運輪倉庫株式會社	同	三五〇、〇〇〇
岡崎倉庫株式會社	岡崎市明大寺町	二〇〇、〇〇〇
牛田倉庫株式會社	知多郡半田町	二〇〇、〇〇〇

市場は明治四十年に於て僅かに五十有餘を算ふるに過ぎなかつたが、其の後商業の發達に伴つて漸く繁衍し昭和七年現在では食料品卸市場數百五十に達し、その取引は頗る活況を呈してゐる。其の主なるものを示せば

熱田魚市場（魚類） 名古屋市南區熱田木免町

枇杷島市場（果實、蔬菜） 西春日井郡西枇杷島町

一宮市場（綿糸織物類食料品） 一宮市

貿易は昭和六年以來對外輸出荷爲替相場場の好轉と滿洲國內軍事工作による軍需品の需要激増の影響をうけて俄然活況を呈し、昭和七年度に於ける輸移出總額は一億二千七百六十一萬六百七圓に達した。其の内海外輸出額は一億一千三百八十六萬三千八百二圓、殖民地移出額は一千三百七十四萬六千八百五圓で、輸移出品は綿織物を第一とし、陶磁器、染物、毛織物等之に次ぐ。其の狀況を示せば次の如し。

品	種	金額
綿織物		八〇、一二三、二九三
陶磁器		一五、二一八、二九二
染織物		四、二六一、七四九
毛織物		三、九五〇、一〇〇
麥酒		二、九三二、二〇六

金融は本縣が東西兩京の商勢圏の中間に介在する關係上銀行業、信託業、無盡業、その他各種信用組合の機能よく發達し、逐年金融界の般盛を招致してゐる。

銀行業は日本銀行名古屋支店を始め本支店銀行六十一を算へるが、内縣内に本店を有するもの特種銀行一、貯蓄銀行七、普通銀行十五で此の資本金總額は八千九百四十六萬圓、預金高三億八千五百三十萬餘圓、貸出高二億百五十九萬餘圓に上る。

信託業は信託會社三の内、縣内に本店を有するものは中央信託會社一社である。其の資本金は五百萬圓、拂込額百三十五萬圓、信託勘定九百五十一萬一千九百九十四圓、金錢信託八百十八萬三千七百十九圓である。

無盡業は縣内に無盡會社九を有し、其の資本金總額は百四十一萬圓、拂込額四十四萬圓、總口數二萬七千四百四口、掛金契約高一千五百七十三萬七千圓、貸付金七十五萬七千七百八圓である。

本縣は是等商業の助長獎勵施設として名古屋市東區東新町陸田ビル内に商品陳列所を置き商品見本、參考品等の陳列展示をなすと共に商工業に關する研究、指導、獎勵並に商取引の紹介、貿易實務の幫助なきに銳意力を注いでゐるが目下市内西區南外堀町に總經費九十三萬餘圓を投じ近世式地上四階建鐵筋コンクリート新舎屋を建設中である。又日滿提携以來對滿貿易の躍進を圖り昭和八年彼地に愛知縣哈爾賓貿易館を新設し、縣産品を陳列して販路の開拓、擴張に努めてゐる。

團體には愛知縣輸出協會、愛知縣能率研究會、愛知國產振興會、愛知縣度量衡協會等がある。

愛知縣輸出協會は縣產品の輸出貿易振興の爲めの共同施設として、昭和二年縣下優良品製造業者並に貿易關係業者の有志を以て組織されたもので會員六十名を有する。事業は商品取引に關する問合、販路の擴張、開拓、貿易に關する調査研究等で、昭和三年には大連に愛知縣物産紹介所を設置し、縣產品の北支、滿洲への躍進につとめつゝある。

愛知縣出品協會は縣產品の販路擴張を目的として大正十五年縣下の實業家により組織されたもので、會員は二百五十名に上る。

愛知縣能率研究會は大正十三年設立されたもので現在會員百九十九名を有し、事務所を縣廳商工課内に置いて専ら商工業能率増進に關する事項の研究に努めてゐる。

愛知縣國產振興會は大正十五年の創立で事務所を縣廳商工課内に置き、國

產品の改善、普及を爲すと共に諸般の事業を行ひ、現在九十六名の會員を有する。

組合は商業組合二十二の外重要物産同業組合百十五の内商工業に關するもの五十三を算へ、事業は商品の共同仕入、共同資金の供給等に於いて専ら積極的活動を續けてゐる。

産業組合 本縣の産業組合は明治三十四年知多郡常滑陶業購買組合の設立を以て嚆矢とする。爾來各地に漸及して郡部ともに異數の發達を遂げ、現在其の數六百に達して府縣中の首位にある。是等組合は信用販賣購買利用を兼營するもの最も多く、信用販賣購買兼營之に亞ぐ。單營組合に於いては信用組合特に發達し、碧海郡に最もよく普及してゐる。又別に縣區域の聯合會として愛知縣信用組合聯合會と愛知縣販賣組合聯合會があるが、郡區域の聯合會は近時縣單位聯合組合の發達によつて漸次衰勢を示しつゝある。

愛知縣信用組合聯合會は明治四十五年の設立で、其の所屬組合數は五百に

達し、出資金百萬四千餘圓、準備金及その他の積立金合せて四萬四千餘圓、有價証券五百二十三萬三千餘圓、預金、現金合せて二百八十四萬餘圓、貸付金二百十六萬四千餘圓である。

愛知縣販賣購買組合聯合會は昭和五年の設立で本所を名古屋市に置き、支所、出張所を縣下各地に設けて専ら各種農産物の共同販賣を爲すと共に全國購買組合聯合會より肥料、飼料、日用諸雜貨等の供給を仰ぎ、之を所屬組合に配給して其の遺憾なき機能の發揮に努めてゐる。

生糸販賣組合はその數十に上り繰糸釜數一千三百、固定資産土地建物、機械器具等合せて八十二萬圓に及ぶ。殊に組合製絲が設立以來全額供繭を勵行してゐることは他府縣に類例のない本縣の特色である。

以上組合の成績を概舉すれば組合員數十四萬四千人、出資金一千百七十餘圓、運轉資金七千八百七十餘萬圓、貯金四千八十餘萬圓、貸付金二千八百四十萬圓、販賣高七百八十八萬圓、購買高五百三十七萬圓、利用料二十八萬圓、

組合餘裕金二千四百五十九萬圓である。

かくの如く産業組合が漸加進展する反面には往々經營の不健全なものがあるので、本縣は之等の指導監督を目的として昭和四年一月産業組合課を新設して産業の改善、經濟の助長につとめ、又職員を郡市に駐在せしめて實績を擧ぐるに努めてゐる。

農業倉庫は大正六年七月農業倉庫業法の公布と共に國策に對應して農業倉庫獎勵規程を制定し、倉庫新設するものに對しては縣費補助金を交付するなごその獎勵に努めた結果、大正七年知多郡河和信用購買販賣組合に於いて設立されたのを最初に逐年増加し、昭和三年末には經營主體百三、棟數百三十を算へ米四十七萬俵、繭十五萬貫の收容力を有するに至つた。

尙ほ産業組合關係の團體として主なるものには産業組合中央會愛知支會、産業組合郡市部會、産業組合製絲組合、農業倉庫協會、電氣利用組合協會等がある。

土木交通



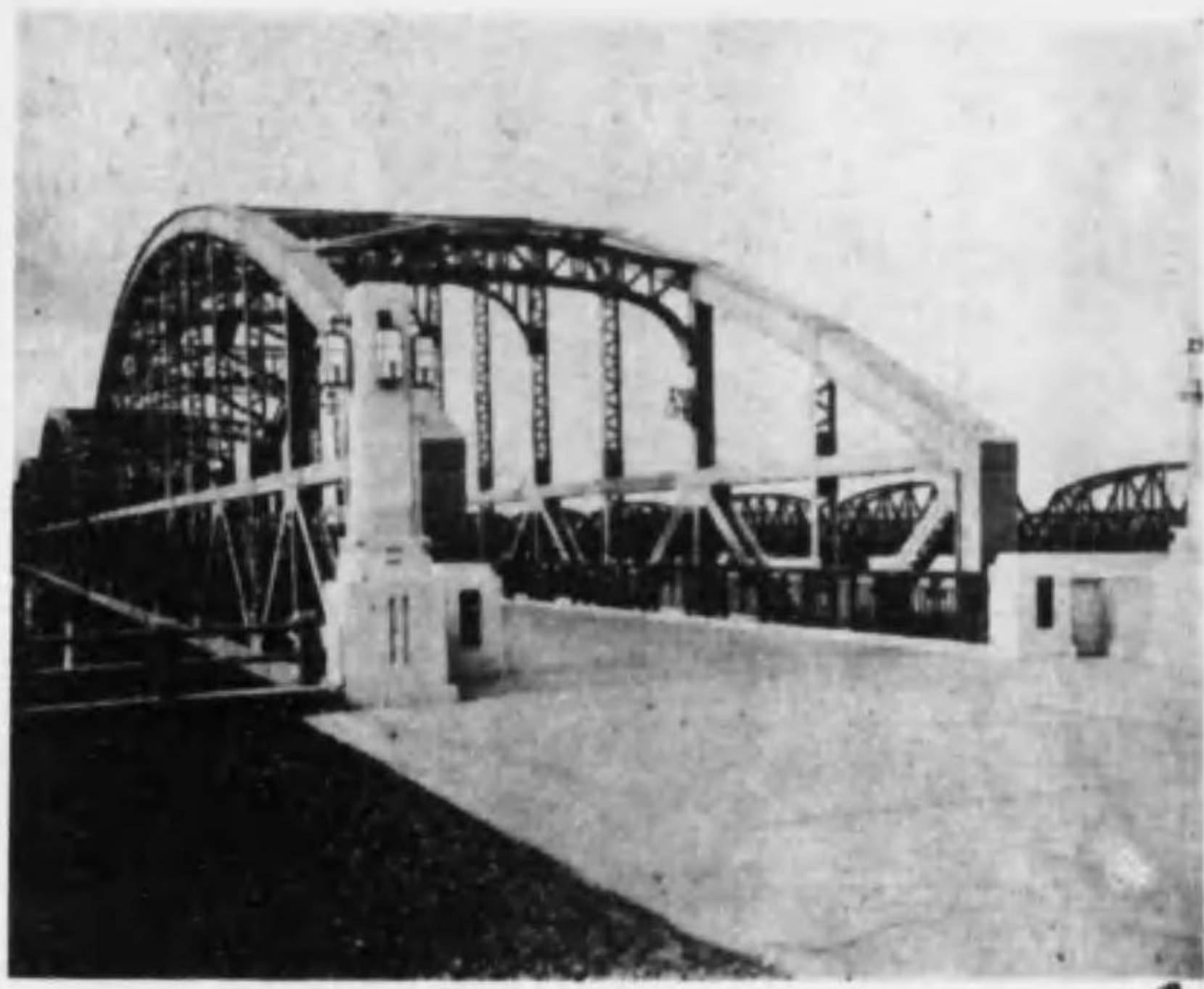
東海道松並木(豊橋市本町-茶屋町)

の不調和なうちにかへつて近代風景の妙を具現してゐる。之に反して名古屋

道路 縣下に於ける幹線道路は國道七線、其の延長百七十軒、府縣道四百六十二線、その延長三千九百軒で之に市町村道を合するときはその延長四萬六千七十軒となる。

國道一號線は東京市から伊勢大廟に達するもので、昔時往來般賑を極めた東海道的大部分を占めてゐる。二川町から名古屋市に通ずる間は年経る松並木が近時施された舗装路面に反映して、その對立

以西は全く舊態を脱し、一路坦々として尾張大橋を経て三重縣下に延びてゐる。此の橋は延長八百八十米を有し、三年七ヶ月の日子と百六十萬圓の巨費を投じて昭和八年竣成したものである。



尾張大橋(海部郡彌宮町)

その擴張、改良を計畫し、目下工事に着手して完成を急いでゐる。

國道十二號線は東京市と石川縣金澤市を連絡する道路で、名古屋市南區熱田傳馬町地内に於て國道一號路線より岐れ、西春日井郡西枇杷島町、一宮市、葉栗郡木曾川町の諸邑を経て岐阜縣に通じてゐる。此の路線は沿線に枇杷島青物市場或は一宮市場の如き賑繁地を控へ交通も杜絶するほどの雑沓を極めるので、本縣は

國道三十號線は東京市と元十五師團司令部の所在せる豊橋市高師町を連絡するもので、起點から豊橋市札木町までは國道一號線を重用してゐる。此の道路は豊橋市の中央から市の南部軍營地に走る重要街路をなすと共に、又渥美半島の各都邑に通ずる幹道の一部をなす。此の他軍事國道とも稱すべき四路線があつて地方幹線として相當重要な地位に置かれてある。

指定府縣道は縣内主要地から岐阜縣多治見町、長野縣飯田町、静岡縣濱松市に通ずる三路線の外縣内の各樞要地及び港灣、停車場を連絡するものなき總計二十一路線に達してゐる。

以上は本縣に於ける最も主なるものであるが、近時産業の發達に伴ひ交通量は逐年その率を増加し、殊に乗合自動車運轉路線の如きは延長三千軒に達して國道の六割、府縣道の四割を占め、鐵道軌道に併行し交叉して之を連絡し將來益々複雑する趨勢にあるので、本縣は是等道路の改善、擴築、鋪裝或は新路の開設に工事を施すもの多く、之が完成の暁は交通の緩和、産業進展

の上に多大の好果を齎すであらう。

鐵道及軌道 本縣の鐵道は現在公私線合せて延長七百七十軒に達するが、尙ほ普及の趨勢顯著で目下敷設工事中我は着工準備中の未開線は延長三百四十軒に及ぶ。

國有鐵道は明治十九年三月開通の武豊線を最初に、東海道線、關西線、中央線、臨港線等相次いで敷設された。就中東海道線は本縣交通の大幹線をなすもので静岡縣より管内二川町に入り、豊橋、岡崎、刈谷、大府等の主要地を走り、支線或は地方の鐵道、軌道を分岐して熱田を經、名古屋に至つて中央線、關西線の基點となり、更に稻澤、一宮を過ぎて岐阜縣に走つて中而して是等の鐵道によつて輸送される一ヶ年の人員は一千三百餘萬人で、發送貨物は二百二萬五千延を超えてゐる。

私設鐵道は名岐鐵道、愛知電氣鐵道、知多鐵道、三河鐵道、瀬戸電氣鐵道、下之一色電車軌道、碧海電氣鐵道、豊川鐵道、渥美電氣鐵道、鳳來寺鐵道、

田口鐵道及び三信鐵道等で、一ヶ年の乗客數は三千餘萬人に達し、各驛の發送貨物は總計百萬越に達してゐる。

河川 本縣の河川は維持管理上河川法を施行するもの十九、其の延長二百九十一軒、河川法を準用するもの百四十、其の延長一萬八百十二軒、之に河川法を施行せざるものを加へるとその數は夥しいものなる。

是等の河川は概して上流に景勝の美を誇り、或は發電の供用多く、中流は幾多の水利を開いて汎く平野を潤し、下流は洋々として運輸の便に富む。かくの如く河川が多大の恩恵を齎らす半面に於いては往々氾濫して生活上、産業上に脅威を與へるので本縣は全川に亘つてその水源に洪水を抑制し、調節して土砂の流出を防ぎ、下流に於いては堤防を改修して治水の完璧を期してゐる。

港灣 本縣は南に風波靜穩なる知多、渥美、伊勢の三灣を擁し海岸線の曲折多きため到るころに良港を見る。古來沿岸航路よく發達し、名古屋、

武豊の二開港を始め横須賀(知多郡)、常滑、豊濱、師崎、龜崎、半田、新川、大濱、平坂、一色、吉田、西浦(寶飯郡)、蒲郡、三谷、前芝、田原、福江等の指定港がある。

都市計畫

大正九年一月本縣に都市計畫法が施行され、名古屋市に之が適用を見たのであるが、同市に於いては此の以前より東京市區改正條例の準用によつて都市計畫的施設に着手しつゝあつた。ついで同十二年豊橋市に、同十四年四月岡崎及び一宮の兩市に、越えて昭和五年九月瀬戸市に於いて夫々之が適用を見、それと同時に市街地建築物法令の施行に依る建築物に對する統制ある取締をも爲した。而して昭和八年都市計畫法の改正に依り町村にも之が適用をなし得ること、なつたので翌九年五月丹羽郡古知野町、海部郡蟹江町、碧海郡安城町、同刈谷町、幡豆郡西尾町に夫々都市計畫法が適用せられ、同時に

都市計畫地區の決定を見るに至つた。



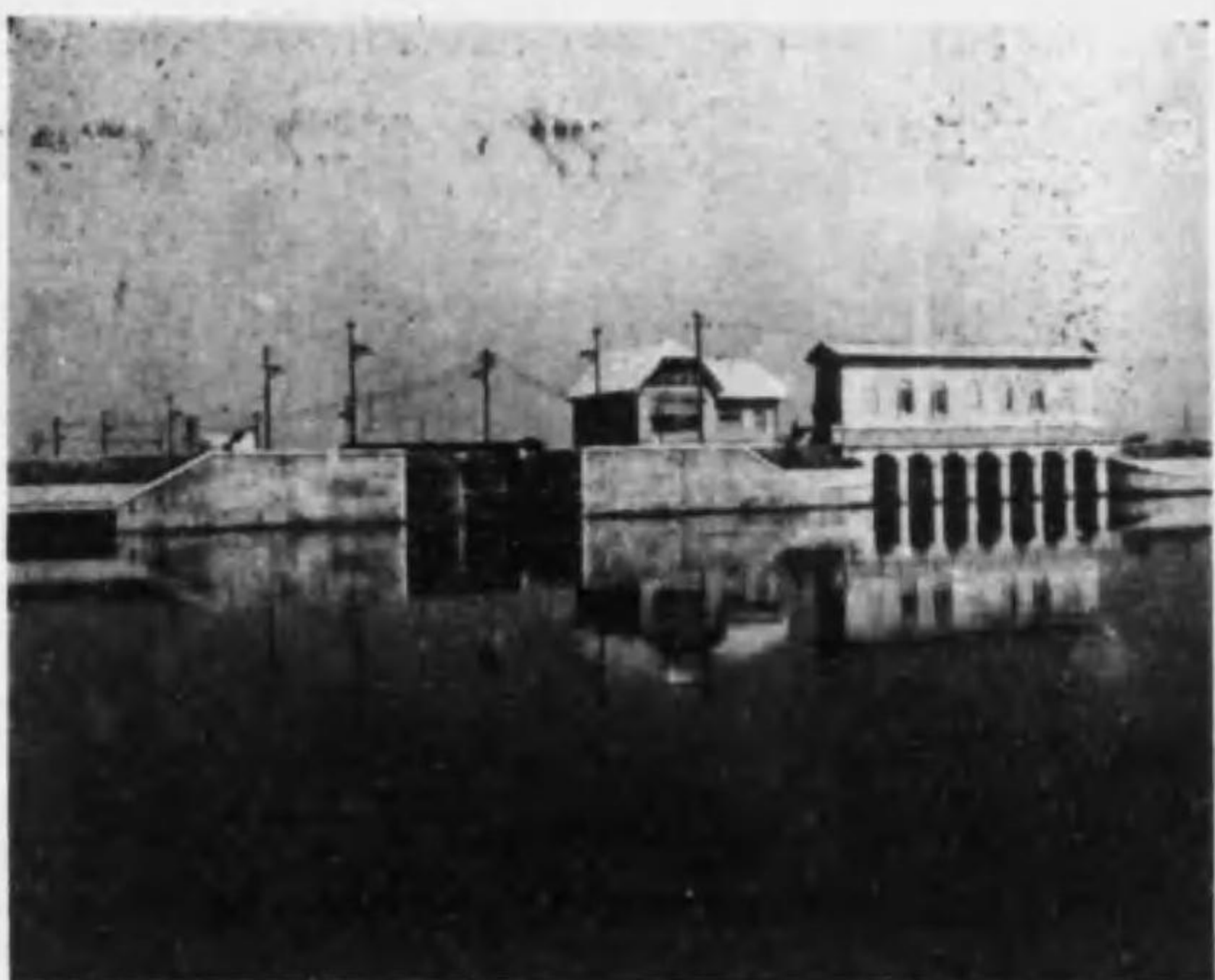
都 市 計 畫 街 路 (舞 鶴 公 園 前 大 池 町 方 面 望 七)

内に於ける道路網の決定は大正十三年であるが、同十五年に至つて之が追加

都市計畫區域 都市計畫區域は名古屋市に於いては大正十一年七月決定せられ其の面積約四千九百七十三萬坪、豊橋市に於いては大正十四年一月決定せられ其の面積三千二百九十八萬坪、岡崎市に於いては大正十五年決定せられ其の面積一千八百六十九萬坪、一宮市に於いても同年三月決定せられ其の面積一千百十二萬坪、瀬戸市に於いては昭和七年決定し其の面積二千九百十九萬坪である。

都市計畫事業 名古屋都市計畫區域

を行ひ、其の路線は幅員二十四間が一路線、十八間か十四路線、十三間半が



中 川 運 河 中 川 口 閘 門

四十四路線、八間が一路線でその延長十一萬一千九百間に達し、事業費概算は六千九十八萬餘圓に上る。而して大正十三年市部に對して都市計畫地域が指定されたが、其の後市街地狀勢の變化並に郡部の發展に鑑みて昭和八年追加變更し、用途、高さ、空地に關しては建築統制が行はれてゐる。又防火地區は大正十二年及び十三年の兩度に指定せられ孰れも建築線から奥行六間迄に定めてゐる。

る。運河網は中川、荒子川、山崎川及び大江川を利用する大運河計畫で大正

十三年街路網と同時に決定せられた。其の延長九千九百二十間、事業費概算は二千七百萬圓である。公園網は大正十五年決定せられ、八十一萬坪の大森林を始め其の數二十四、總面積百六十七萬坪に及び其の事業費概算一千七百三十餘萬圓に上る。而して現在事業の完成したるもの或は執行中のものは市内道路の新設、擴築、路面の改良、運河の開鑿、下水道の新設、建築敷地の造成、土地區劃整理等である。

豊橋都市計畫區域内に於ける道路網の決定は昭和三年で路線は幅員十五間が一路線、十三間半が四路線、十二間が十三路線、十一間が一路線、八間が十六路線で、其の延長五萬三千餘間、事業費概算は二千九十二萬圓に上る。而して昭和五年都市計畫地域が指定されたが、之は用途に關する制限のみを加へてゐる。又昭和六年に下水計畫が決定せられ、其の排水區域の面積は百九十餘萬坪、最新式汚水處分場を設置して豊川へ放流する計畫を立て、現在道路の新築、擴築、下水築造等の事業執行中である。

岡崎都市計畫區域内に於ける道路網は昭和五年決定せられ、路線は幅員十二間が三路線、十間半が十二路線、八間が六路線、六間が八路線で其の延長三萬七千餘間、事業費概算は一千七百七十八萬餘圓に上る。

一宮都市計畫區域内に於ける道路は昭和四年に決定せられ、路線は幅員十三間半が一路線、十二間が六路線、十間半が十三路線、八間が七路線、六間が十一路線で其の延長四萬五千餘間、事業費概算は一千二百九十八萬餘圓に上り、現在執行中のものは道路の新築、擴築等である。

耕地整理

耕地整理法發布以來新業の發達は順調で明治三十三年西春日井郡六ツ師村現在の師勝村に之が認可を得たのを以て嚆矢とする。當初は縣農會に於いて事務を處理したが、爾來事業の勃興するに伴れて漸く事務が繁忙になつたので同三十九年之を縣營に移し國庫の補助を受けて設計調査、基本調査、工事

監督の三部を設け、専ら斯業の普及と發達に務めた。尋いで同四十三年耕地



(村和平郡島中) 況狀理整劃區るけに合組水用和平

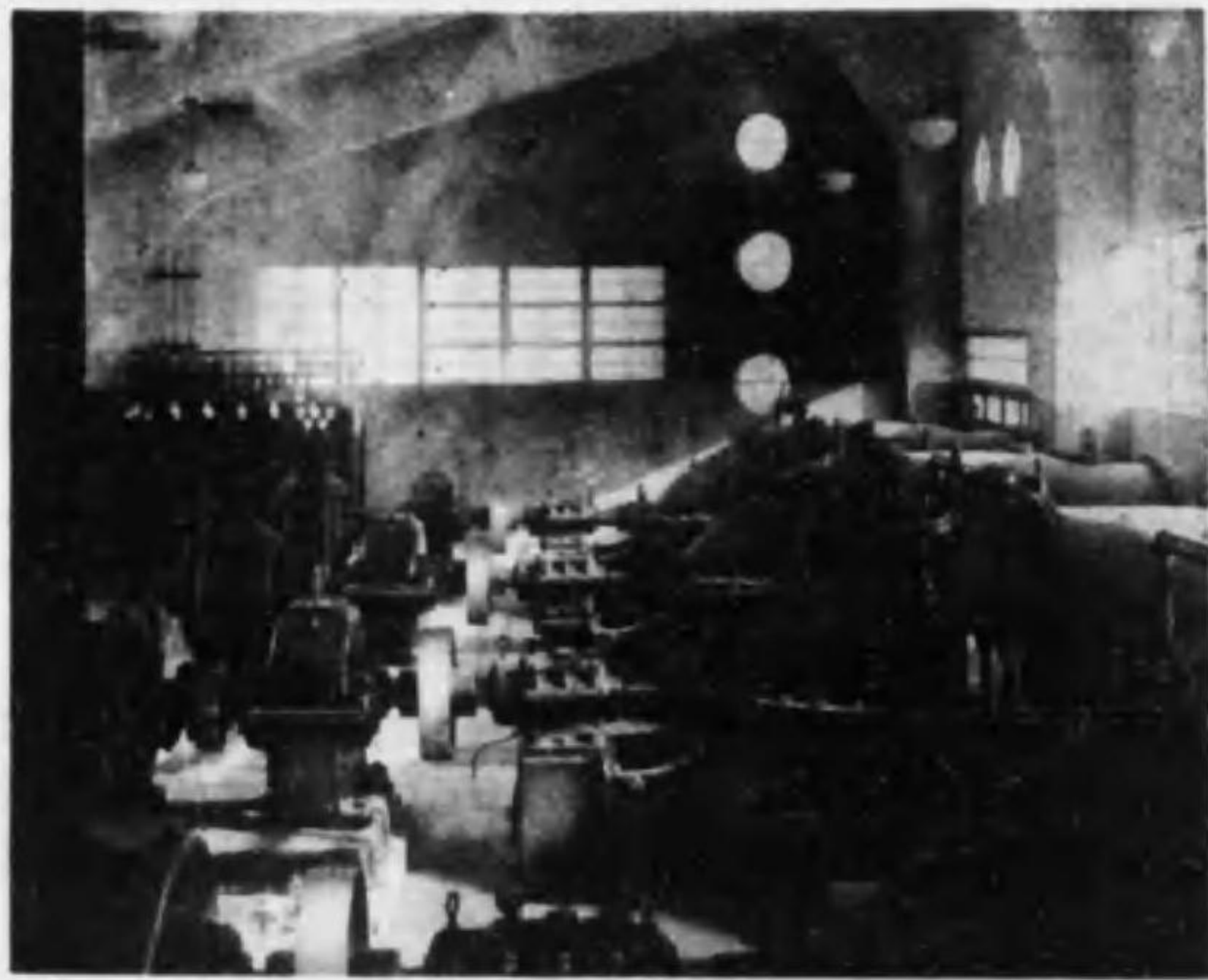
には其の施行地區數九十六ヶ所に達した。其の施行豫定面積は開田千七百六

整理、土地改良獎勵規程、耕地整理基本
調査規程、耕地整理工費補助規則等制定
せられて事業は一段の進展を示し、大正
元年名古屋市に江西耕地整理組合の設立
を見るに至つた。又同七年開墾助成法の
發布されるや、渥美郡田原町大久保耕地
整理組合が先駆して出願認可を受け、爾
來出願するもの漸次多きを加へた。而し
て翌八年同法施行以來本縣は銳意その獎
勵につとめたので縣下全般に洽く認知せ
られて企圖する者續出し、昭和八年度末

十二町歩、開畑一萬八千二百二十一町歩で内工事の完了したる地區數二十九

其の開田三百五町歩、開畑四百四十三町
歩に及ぶ。

本縣は是等事業の獎勵施設としては大
正十年開墾移住獎勵規程を設け、爾來年
々二十戸に對して補助金を交付してゐる
が、昭和八年度末までに交付したる地區
數は三十箇所に及び其の移住家屋三百三
十四戸、共同建造物六棟に達した。又開
墾地に於ける勞力節減並に事業遂行を容
易ならしむるため「トラクター」二臺を
備へてその利用を獎勵してゐるが、其の



室關機るせ備裝を機水排時四十五
(所務事良改水排岸沿川田福村陽南郡部海)

成績は概して良好で、大正十一年組織された愛知縣耕地協會は専ら之が完了

事務の助成につとめてゐる。

また同十三年よりは縣管排水改良事業並に農業水利調査等數ヶ年の繼續事業として工事に着手し、昭和二年四月竣工した横須賀悪水地域を始め、汐川、戸田川、廣田川、奥村等の各事業地域が相次いで完成した。而して現在工事中或は工事準備中のものは油ヶ淵外十九ヶ所の多數に上り、農村發展に裨益するところ顯著なものである。

用排水改良事業一覽

名 稱	區	域	面積	事業費	備 考
横須賀排水改良事業	横須賀郡 吉田町	横須賀村	一、〇八〇町	一七〇、〇〇〇円	大正十三年度着手 昭和元年度竣工
汐川沿岸排水改良事業	渥美郡 赤羽根村 神戶村	赤羽根村 神戶村	五八五	一五、〇〇〇	昭和 三年度竣工

戸田川沿岸排水改良事業	海部郡 大治村	南陽村、大治村	一、〇五〇	一六、〇〇〇	昭和 四年度竣工
奥村用水改良事業	中島郡 朝日村、今伊勢村 萩原町、奥町	朝日村、今伊勢村 萩原町、奥町	二、〇〇〇	四九、二〇〇	昭和五年十月着手 八年十二月竣工
廣田川沿岸排水改良事業	岡崎市 碧海郡 幡豆郡 室場村	六ツ美村 豊坂村、三和村 室場村	九四三	六五、〇〇〇	昭和五年十月着手 七年十一月竣工
油ヶ淵沿岸排水改良事業	碧海郡 旭村、新川町	高濱町、明治村 旭村、新川町	七五	五八、三〇〇	昭和五年十月着手 九年度竣工予定
福田川沿岸排水改良事業	海部郡 富田村、七寶寺町 中島郡 千代田村 西春日井郡 清洲町	蟹江町、南陽村 富田村、七寶寺町 千代田村 大里村	三、三〇〇	四六、〇〇〇	昭和七年四月着手 十年年度竣工予定

耕地整理

宮田用水改良事業	一宮市、西春日井郡、丹羽郡、 葉栗郡、中島郡、海部郡、 市五郡三十六ヶ町村	三、五四一	一、五四〇、〇〇〇	昭和六年三月着手 昭和十五年竣工予定
安永川沿岸排水改良事業	西加茂郡 舉母町、高橋村	五〇五	四〇〇、〇〇〇	昭和七年八月着手 昭和十一年度竣工予定
蟹江大濇沿岸排水改良事業	海部郡 蟹江町、永和村、 神守村、七寶村	八三九	二四〇、〇〇〇	昭和六年三月着手 昭和九年度竣工予定
日光川西排水改良事業	海部郡 蟹江町、市江村、 永和村、津島町	一、七〇〇	二九八、五七四	昭和六年三月着手 昭和九年度竣工予定
北濱排水改良事業	幡豆郡 西尾町、福地村、 一色町、寺津町	三、一九〇	三七八、六三〇	昭和七年七月着手 昭和九年度竣工予定
幸田用水改良事業	額田郡 幸田村	五五三	三四〇、〇〇〇	昭和九年一月着手 昭和十四年度竣工予定
鹿乘川沿岸排水改良事業	碧海郡 矢作町、 櫻井村	一、三三三	一、〇六〇、〇〇〇	昭和九年一月着手 昭和十三年度竣工予定
孫資排水改良事業	海部郡 彌富町、十四山村、 市江村、佐屋村	一、五三〇	二二〇、〇〇〇	昭和九年一月着手 昭和十一年度竣工予定
占部用水改良事業	岡崎市、碧海郡、額田郡、 海部郡 神守村、佐織村、 美和村	一、二〇〇	三〇〇、〇〇〇	昭和八年四月着手 昭和十二年度竣工予定
目比川下流沿岸排水改良事業		七六〇	九〇〇、〇〇〇	昭和十年着手 昭和十三年度竣工予定

日光川沿岸排水改良事業	葉栗郡 葉栗村、淺井町、 一宮市 木曾川町	一、三三八	四〇〇、〇〇〇	昭和七年十二月着手 昭和八年度竣工
明治用水改良事業	碧海郡 上郷村、矢作町、 安城町、櫻井村、 明治村、知立町、 依佐美村、刈谷町	九、九四六	五〇、〇〇〇	昭和七年十二月着手 昭和八年度竣工
五ヶ村川沿岸排水改良事業	知多郡 大府町、 碧海郡 鳴海町、豊明村、 刈谷町	九七四	一一〇、〇〇〇	昭和七年十二月着手 昭和九年度竣工
篠定松原用水第一期改良事業	寶飯郡 一宮村、豊川町、 八名郡 大和村	七五〇	七八、〇〇〇	昭和七年十二月着手 昭和九年度竣工
目比川上流沿岸排水改良事業	中島郡 千代田村	八〇八	三五、〇〇〇	昭和八年十一月着手 昭和九年度竣工予定
松原用水改良第二期事業	寶飯郡 一宮村、牛久保町、 豊川町、小坂井町	七五〇	三五、〇〇〇	昭和八年十一月着手

耕地整理

地区名	事務所所在地	開田開畑	其ノ他	事業費
八名郡 大和村 豊橋市	八名郡 大和村	一六町		九年度竣工豫定
幡豆郡 横須賀村、吉田町	幡豆郡 横須賀村、吉田町	一七町		昭和八年十一月着手 九年度竣工
愛知郡 豊明村	愛知郡 豊明村	一〇		昭和八年十月着手 九年度竣工豫定
碧海郡ノ一部 幡豆郡ノ一部	碧海郡ノ一部 幡豆郡ノ一部	一五 一六		昭和九年度着手 十六年度竣工豫定
一宮市、西春日井郡、丹羽郡 葉栗郡、中島郡、海部郡	一宮市、西春日井郡、丹羽郡 葉栗郡、中島郡、海部郡	一四		昭和九年度着手 十六年度竣工豫定

1011

主なる工事中の耕地整理地区一覽

地区名	事務所所在地	開田開畑	其ノ他	事業費
高岡村 耕地整理組合	碧海郡高岡村	一六町		六一七、三〇〇
竹陽 耕地整理組合	同	一四		六四〇、〇〇〇
佐屋川 耕地整理組合	海部郡津島町	二四		七五〇、〇〇〇
東春日井郡篠木村木原耕地整理組合	東春日井郡篠木村	一	縣有林拂下ニヨリ果樹園トナス	三五、〇〇〇

渥美郡赤羽根村若見耕地整理組合	渥美郡赤羽根村	二三	古田補水溜池改修	一〇〇、〇〇〇
渥美郡福江町豊島池耕地整理組合	同 福江町	三〇	豊島ヶ池干拓ニヨル	九〇、〇〇〇

警 備

警 察 近時社會の情勢は商工業の發達ニ交通機關の整備するに伴れて益々複雑多を極め、昭和五年以降三ヶ年間に於ける刑法犯罪發生事件の平均數は八萬五千四百九十九件に上り府縣中の第三位にある。かく犯罪事件多きため警察力の完否は直ちに治安上に影響を及ぼし、随つて警察官の定員は逐年増加の趨勢にある。現在警察官の總數は警察部長以下二千七百九十六名之を警察部及び三十三警察署（名古屋市九、郡部二十四）に配屬して事務を管掌せしめ 社會の安寧、秩序維持の完璧を期してゐる。而して警察官の素質向上に就いては特に留意し警察練習所の設置、機關雜誌の發行、講習生の派遣、

耕地整理、警備

1011

警察官合宿所の經營、表彰等の施設をなし、専ら時代に順應する理想的警察官の養成につこめてゐる。

消 防 本縣に於ける火災度数は近年都市の發達と共に逐年増加しつつ、あるが、其の損害額は之に反して漸減の傾向を辿つてゐる。之はまさしく消防機關の整備と進歩を語るものである。現在消防組總數は二百二十八、其の組員總數六萬人を超え、消防機械は自動車唧筒二十四臺、瓦斯倫唧筒二百七十一臺、オートバイ唧筒一臺、腕用唧筒一千四百四十四臺、其の他救助具一千四百二十六器を有する。

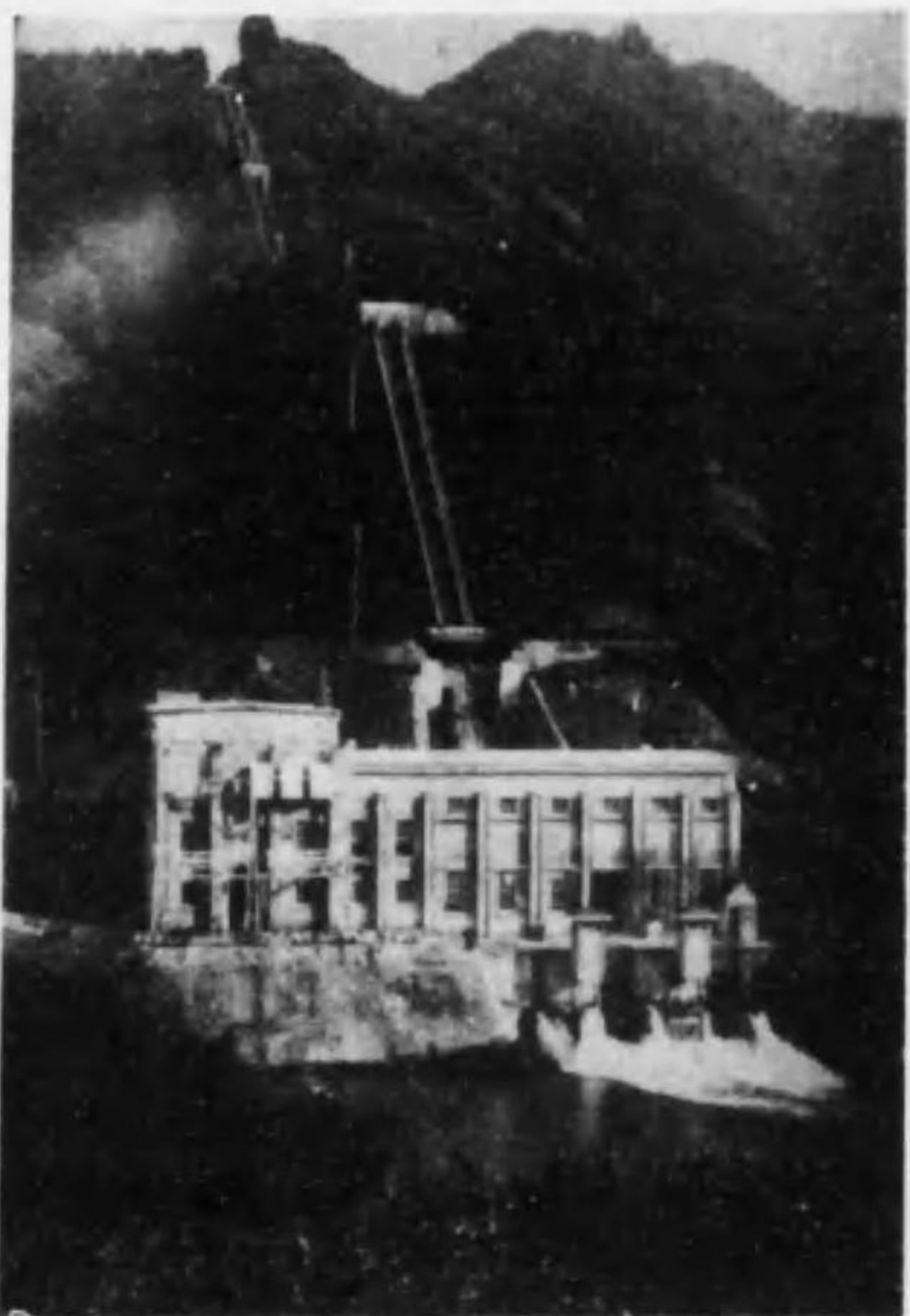
此の他後援團體として少年消防隊八十三、其の隊員一萬三千三百六十三名、婦人消防隊二十四、其の隊員八百六十四名等がある。而して特設消防の設備ある名古屋市に於いては中、南の兩消防本署に出張所七、人員百八十餘名自動車唧筒十六臺、梯子自動車二臺、水管オートバイ六臺を備へ、四千四百十八個の公私設消火栓を有してゐる。

電氣及瓦斯事業

電 氣 縣下に於ける電燈會社は十數社を算へるが、其の主なるものは東

邦電力株式會社と中部電力株式會社である。

東邦電力株式會社は名古屋市に支社を有し、其の電氣供給區域は名古屋市を中心とする三市八十六ヶ町村の外岐阜縣下に亘り、電燈百七十七萬燈、電力二十六萬三千馬力を供給してゐる。而してこれ等



矢作水力発電所 (北設郡武節村)

電氣は木曾川筋に設備する水力發電所と名古屋市に於ける火力發電所の自家電氣及瓦斯事業

發電に依る外電力供給を目的とする大同電力、矢作水力、日本電力等の諸會社より受電してゐる。

中部電力株式會社は岡崎市に本社を有し、電氣供給區域は岡崎市を中心とする二市四十八ヶ町村の外岐阜縣下に跨り、電燈四十六萬燈、電力四萬二千馬力を供給し、これ等電氣は矢作川筋にある水力發電所及大濱火力發電所の自家發電によるの外、電力供給會社より受電して一般に供給してゐる。

瓦斯 縣下に於ける瓦斯事業は其の營業會社四、製造所六で資本金總額二千五百十七萬餘圓、供給戸數合計七萬九千二百餘戸、一ヶ年の瓦斯製造量合計三千六百八十二萬餘立方メートルに達してゐる。

名古屋市に本社を有する東邦瓦斯株式會社は本邦に於ける這種會社中屈指のもので資本金二千四百二十七萬餘圓を有し、名古屋、一宮の兩市及び知多郡半田町の三ヶ所に製造所を設け、名古屋市及び附近の五ヶ町村、一宮市、半田、成岩、龜崎の各町の需要戸數七萬四千八百餘戸に對して一ヶ年三千五

百四十三萬二千餘立方メートルの瓦斯を製造してゐる。而して半田町に於いて全國に率先して從來の容量制を熱量販賣制に改めたが、現在は名古屋市にも之を實施してゐる。

豊橋瓦斯株式會社は資本金五十萬圓で、豊橋市及び其の附近を供給區域とし、需要戸數三千三百五十餘戸に對して一ヶ年百十餘萬立方メートルの瓦斯を製造する。

岡崎瓦斯株式會社は資本金二十萬圓で岡崎市を供給區域とし、需要戸數八百戸に對する一ヶ年の瓦斯製造量は二十二萬三千餘立方メートルである。

犬山瓦斯株式會社は資本金二十萬圓で犬山町を供給區域とし、需要戸數三百戸に對して一ヶ年七萬立方メートルの瓦斯を供給してゐる。

衛生

本縣の衛生に關する社會施設は衛生思想の普及と施設の改善に依つて漸次

良好の域に進みつゝある。

病院 縣内に於ける病院の總數六十八、其の收容定員四千九十四名で一の平均收容人員約六十名に當る。其の内名古屋醫科大學附屬病院は診察料を徴收せず、公立名古屋市民病院は名古屋市に於ける中産階級以下の診療機關として、縣立岡崎病院は三河地方に於ける一般縣民の治療機關として何れも設備の完全と低廉なる藥料並に施治料に依つて多大の貢獻を爲してゐる。又名古屋市東區田代町にある縣立精神病院は患者三十五名の收容力を有するが、設備の不完全と狹隘のため昭和六年より四ヶ年の繼續事業として經費十六萬圓を以て目下改築工事中である。之が完成の暁は百五十名の患者を收容する豫定で其の設備は全國の粹を蒐めてゐる。

上下水道 本縣に於ける上水道は木曾川を水源とする名古屋市の上水道を以て最初とする。當時給水能力は一日五萬一千立方メートルであつたが、其の後市勢の發展に伴ひ人口激増するに共に供給能力に不足を生じて擴張工事を施

工すること前後三回に及び、現在では優に百五十萬人分の送水をなしてゐる。下水道は上水道と拮抗して進捗し、現在に於いては人口稠密する區域に殆ん之が整備を見るに至つた。之は昭和元年縣費補助の途開けて以來遽かに上下水道が實施された結果である。

上下水道一覽

市	種別	計畫ノ	
		竣工年月	人口
名古屋市	上水道	大正三、三	一、五〇〇、〇〇〇
同	下水道	昭和六、三	一、五〇〇、〇〇〇
同	下水處理場	昭和五、三	一、五〇〇、〇〇〇
豊橋市	上水道	昭和五、三	七九、〇〇〇
同	下水道	昭和八、七	一九三、四八〇
岡崎市	上水道	昭和八、七	一二〇、〇〇〇
同	下水道	昭和八、七	九〇、〇〇〇
一宮市	上水道	昭和八、七	六〇、〇〇〇
同	下水道	昭和八、七	六二、五一七

衛生	未 完 成	昭 和	七、一〇	六九〇、〇〇〇	三五、〇〇〇
瀬 戸 市 上 水 道	七、一〇	昭 和	七、一〇	三八、〇〇〇	七、五〇〇
山 上 水 道	五、三	昭 和	五、三	三五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
犬 山 町 上 水 道		昭 和			
半 田 町 上 水 道		昭 和			

一一〇



名古屋上市水道配水塔 (名古屋東區代町)

下水處理場 名古屋市の下水は之を運河に放流する關係上、汚染を防止する施設として經費百八十萬圓を投じ、昭和五年堀留及熱田に下水處理場を竣工した。之は新式淨化裝置を有する本縣獨自のものである。

堀留下水處理場は九千九百七十七平方メートル敷地を有し、市の中樞部、即ち區域一萬三千平方公尺内に於ける人口三十萬人分の下水及尿尿の淨化處理をなすもので、

平時は一日四萬一千四百九十軒、降雨時には平時の三倍量を處理する能力がある。

熱田下水處分場は一萬二千三百九十七平方公尺敷地を有し、中、南の兩區の一部即ち堀川と新堀川間の面積五千三十四平方公尺内に於ける人口十三萬人分の下水と尿尿の淨化處理をなすもので、平時は一日一萬八千三十九軒、降雨時には平時の三倍量を處理する能力を有する。

尿尿處分 名古屋市に於ける尿尿處分は、初め農民契約と市直營を併用してゐたが、中頃これを請負制度に變更し、更に昭和八年全區域を二十五區に分つて其の運搬を請負はしめることとなつた。而して其の處分は専ら市の直營事業をなし、一部は販賣業者及び沿海農村より回漕する尿尿船に無償交付し、殘餘は之を市設尿尿流注所へ搬入して下水道へ放流し堀留、熱田の兩下水處理場に於て淨化處理してゐる。而してその流域に於ける約四十五萬人の尿尿は直接下水管に放流せしめ、尙ほ運搬費の輕減を圖つて目下市内各

所に流注所の増設を行ひつゝある。

塵芥處理 本縣の各都市に於いて排出される塵芥の處理は從來田畑、池沼、低地等の埋立に利用されてゐるが、衛生上幣害多き爲め最近左の七ヶ所に理想的焼却場を設置し塵芥處理上遺憾なきを期してゐる。

塵芥焼却場

名	稱	位	置	焼却火爐數	一日ノ焼却能率
名古屋	市營則武塵芥焼却場	名古屋	西區則武町字中田	六	四二、〇〇〇 <small>厨</small>
〃	下飯田塵芥焼却場	〃	東區下飯田町字狐田	一五	一二六、五六三
〃	高畑塵芥焼却場	〃	南區高畑町字中萩	一〇	一六四、二五〇
〃	庄内塵芥焼却場	〃	西春日井郡庄内町大字堀越	六	六七、五〇〇
〃	八事塵芥焼却場	〃	愛知郡天白村大字八事植田	八	九〇、〇〇〇
〃	鴨浦塵芥焼却場	〃	名古屋南區鴨浦	三	三三、七五〇
一宮市	下沼塵芥焼却場	一宮市	下沼町	二	一八、七五〇

屠場 縣下の屠場は市設五、町村設六、私設三、簡易屠場三である。其の内名古屋市營屠場は工費三十三萬二千圓を以て昭和六年七月竣工したもので昭和七年に於ける屠殺頭數は五萬九千九百九十一頭に上つてゐる。隣接地には化製場並に特別検査所を設置し、化製場に於ては屠畜の骨、血液等に油肥、骨粉操作を施して肥料を製造し、特別検査所に於いては一般獸畜の検査並に治療に應じてゐる。

選舉

貴族院議員 は多額納税者議員二名を選出する。昭和八年の調に依る互選資格者は二百人、之が最高納税額は一萬三千八百三十七圓、最低が一千二百九十一圓で最近に於ける選舉成績は棄権者二割五分六厘である。

衆議院議員 の定員は十七名で内名古屋市五名、郡部十二名に分れ、昭和八年十二月現在に於ける選舉有権者總數は五十四萬九千九百九十二人、内名古屋

市十九萬二千六百九十六人、郡部二十五萬七千二百十六人で人口千中選挙有権者二百三人に當り、最近の選挙成績は棄権者二割二分である。

縣會議員は定員五十八名、内名古屋市二十名、郡部三十八名で最近の選挙の結果に依れば（昭和六年九月）當日の選挙有権者数は四十九萬二千人、投票者数三十七萬四千八百七十七人、棄権者二割三分八厘である。

市會議員の定員は百九十六名で、内名古屋市六十四名、豊橋市三十六名、岡崎市三十六名、一宮市三十名、瀬戸市三十名である。

町村會議員の定員は三千七百五十三名で、碧海郡安城町に於ける定員三十名を最高とし定員二十四名の町村二十九、定員十八名の町村百、定員十二名の町村九十六、定員十六名及び十四名の町村各二、定員十五名の町村一である。

昭和八年十二月現在の市町村會議員選挙有権者数は五十三萬七千七百七十六人で、人口千中選挙有権者数一八六・一二に當る。之を市郡別に見れば内市部

二十四萬五十二人、郡部二十九萬七千二百二十四人となる。

歴代の知事

任官年月日	氏名
明治 四年十二月十二日	井 關 盛 良
同 六年五月三十日	鷺 尾 隆 聚
同 八年十二月三十日	安 場 保 和
同 十三年三月八日	國 貞 廉 平
同 十八年一月廿二日	勝 間 田 稔
同 廿二年十二月廿六日	白 根 專 一
同 廿三年五月廿一日	岩 村 高 俊
同 廿五年一月十五日	千 田 貞 曉
同 廿五年七月廿日	安 場 保 和

選挙、歴代の知事

歴代の知事

明治廿五年八月廿日
 同 卅一年十一月十三日
 同 卅一年十二月廿八日
 同 卅五年五月十二日
 同 卅五年十月四日
 大正 元年十二月廿八日
 同 二年三月三日
 同 八年四月十八日
 同 十年五月廿七日
 同 十二年六月十六日
 同 十三年六月十三日
 同 十五年九月廿八日
 昭和 二年五月十七日

時任爲基
 江木千之
 沖守固
 野村政明
 深野一三
 石原健三
 松井茂
 宮尾舜治
 川口彦治
 太田政弘
 山脇春樹
 柴田善三郎
 小幡豊治

官署一覽

同 四年七月五日
 同 六年一月二十日
 同 六年十二月廿一日
 同 七年六月廿八日
 同 八年七月廿一日
 同 九年八月十日

岡正雄
 香坂昌康
 尾崎勇次郎
 遠藤柳作
 三邊長治
 篠原英太郎

官署名

帝室林野局名古屋支局
 同 熱田出張所
 同 豊橋出張所
 同 新城出張所

所在地

名古屋市東區武平町
 同 南區熱田西町
 豊橋市
 南設樂郡新城町

歴代の知事、官署一覽

官署一覽

帝室林野局名古屋支局愛知出張所
 内務省土木局名古屋土木出張所
 名古屋職業紹介事務局
 大藏省預金部名古屋出張所
 同 小牧出張所
 同 一宮出張所
 同 津島出張所
 同 半田出張所
 同 大濱出張所
 同 岡崎出張所
 同 田口出張所
 同 豐橋出張所
 名古屋地方專賣局

名古屋市東區武平町
 同 上堅杉ノ町
 愛知縣廳構内
 名古屋市中區古澤町
 東春日井郡小牧町
 一宮市大字一宮
 海部郡津島町
 知多郡半田町
 碧海郡大濱町
 岡崎市康生町
 北設樂郡田口町
 豐橋市東八町
 名古屋市中區古澤町

大阪稅關名古屋稅關支署
 同 武豐稅關支署
 名古屋稅務監督局
 名古屋稅務署
 小牧稅務署
 一宮稅務署
 津島稅務署
 半田稅務署
 大濱稅務署
 岡崎稅務署
 田口稅務署
 豐橋稅務署
 陸軍造兵廠名古屋工廠
 官署一覽

同 南區港本町
 知多郡武豐町
 名古屋市中區古澤町
 同
 東春日井郡小牧町
 一宮市大字一宮
 海部郡津島町
 知多郡半田町
 碧海郡大濱町
 岡崎市康生町
 北設樂郡田口町
 豐橋市東八町
 名古屋市南區

官署一覽

名古屋陸軍兵器支廠
 名古屋憲兵隊
 名古屋憲兵分隊
 豐橋憲兵分隊
 豐橋陸軍教導學校
 第三師團司令部
 名古屋聯隊司令部
 豐橋聯隊司令部
 名古屋控訴院
 名古屋地方裁判所
 名古屋區裁判所
 一宮區裁判所
 半田區裁判所
 名古屋市東區
 同 西區
 同
 豐橋市
 同
 名古屋市西區
 同
 豐橋市
 名古屋市東區主稅町
 同
 同
 一宮市大字一宮
 知多郡半田町

岡崎區裁判所
 豐橋區裁判所
 新城區裁判所
 名古屋供託局
 名古屋刑務所
 岡崎少年刑務所
 農林省米穀部名古屋米穀事務所
 農林省水產試驗場豐橋分場
 名古屋輸出絹織物檢查所
 名古屋貯金支局
 名古屋遞信局
 名古屋郵便局
 笹島郵便局
 岡崎市康生町
 豐橋市東八町
 南設樂郡新城町
 名古屋市東區主稅町
 同 千種町
 岡崎市康生町
 名古屋市南區大江町
 豐橋市
 名古屋市西區上名古屋町
 同 東區横代官町
 同 長堀町
 同 中區榮町
 同 西區笹島町

官署一覽

愛知縣案内

後編

名古屋無線電信局	名古屋市中區榮町
名古屋中央電話局	西區桶屋町
名古屋鐵道局	西柳町
名古屋運輸事務所	中區笹島町
名古屋保線事務所	西區西柳町
名古屋鐵道局名古屋工場	中區長良町

官署一覽

一三三

愛知縣案内 後編

名古屋市

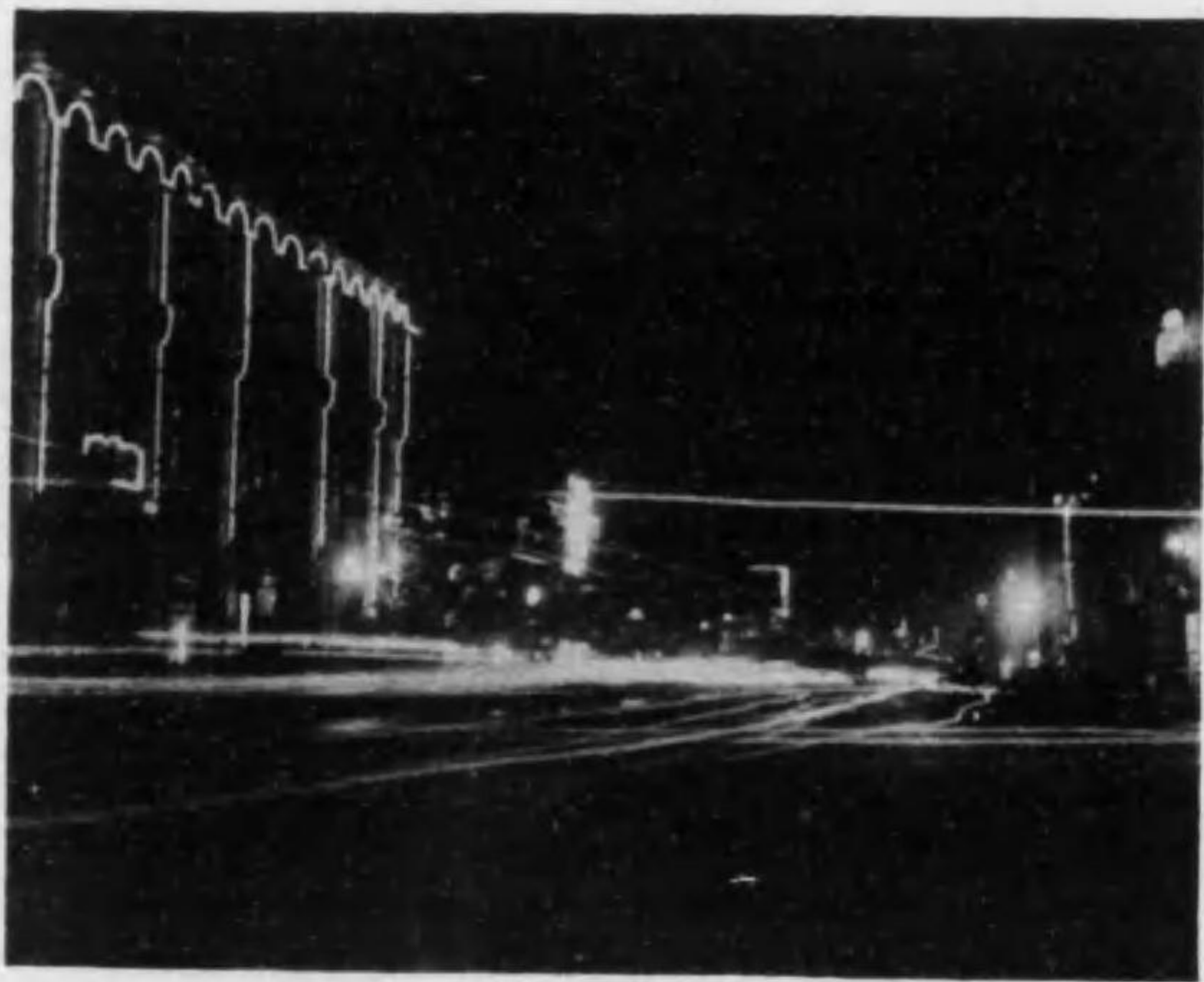
東海道線	名古屋驛・熱田驛
關西線	名古屋驛
中央線	千種驛・大曾根驛
愛電線	神宮前驛
名岐線	柳橋驛・上飯田驛

慶長十五年名古屋城が築かれ、尾張の府が此の地に移されて以來親藩尾張侯の城下街として急速に繁榮し、殊に明治維新の際、他の都府が多く兵亂の巷ミ化するも獨り此の地のみはその圏外に置かれた。その後交通、通信機關の整備するにつれて産業は駁々發達し、また數次接續町村の合併が行はれて區域も擴大し、今や人口百萬を越ゆる商工都市として本邦産業上の一大中心地をなすに共に近年歐洲航路も開け國際貿易都市として目覺しき躍進を續けてゐる。

工業の内主なるものは繊維工業、窯業、機械器具工業等で、工産総額二億四



御幸本町通 廣小路北方向を望む



廣小路夜景色

千六百餘萬圓に達し、就中繊維工業の生産額はその約五割二分を占めてゐる。

尙ほ人口の過半数が所謂工業人口であるに依つて見ても、本市趨勢の一斑を窺ふことが出来よう。

官幣大社 熱田神宮

(南區熱田新宮坂町)

伊勢の兩神宮に亞ぐ由緒の尊い大社で、長くも天璽草薙神劍を奉齋せられ、相殿には天照大神、素盞鳴尊、日本武尊、宮寶媛命、建稻種命の五柱が祀られてある。古くは熱田宮、熱田皇太神、熱田大神宮と稱せられ、明治四年官幣大社熱田神宮と稱し奉つた。例祭は六月二十一日であるが、其の他一月十一日の踏歌神事、同



熱田神宮皇門

十四日の御的射神事なき特種の祭典が嚴かに行はれる。

現在の社殿は明治二十六年伊勢神宮に倣つて改築された爲め、其の以前は大いに趣を異にしてゐるが、元龜二年織田信長の改築と傳ふる海上門と慶長四年加藤清正の造營せる鎮皇門は昔の儘で、今國寶に指定されてゐる。その他桶狭間戰捷奉養の爲めに信長の築いた俗に信長塀と稱せられる築土塀も残つてゐる。

四萬四千七百坪に餘る神域には巨樹老木が鬱蒼と茂り、古來七本樟ミ稱する樟の巨木もあつて極めて美しい社叢をなしてゐる。

攝社ミしては式内の名神大社日割御子、孫若御子、高座結御子の三社及び五社の式内社があるが、其の内知多郡大高町火上山に鎮座する火上姉子神社は宮簀媛命を祭神ミし、其の邸趾に神社を營むだと傳へられてゐる。其の他に別宮八劍宮を始め數多の末社がある。

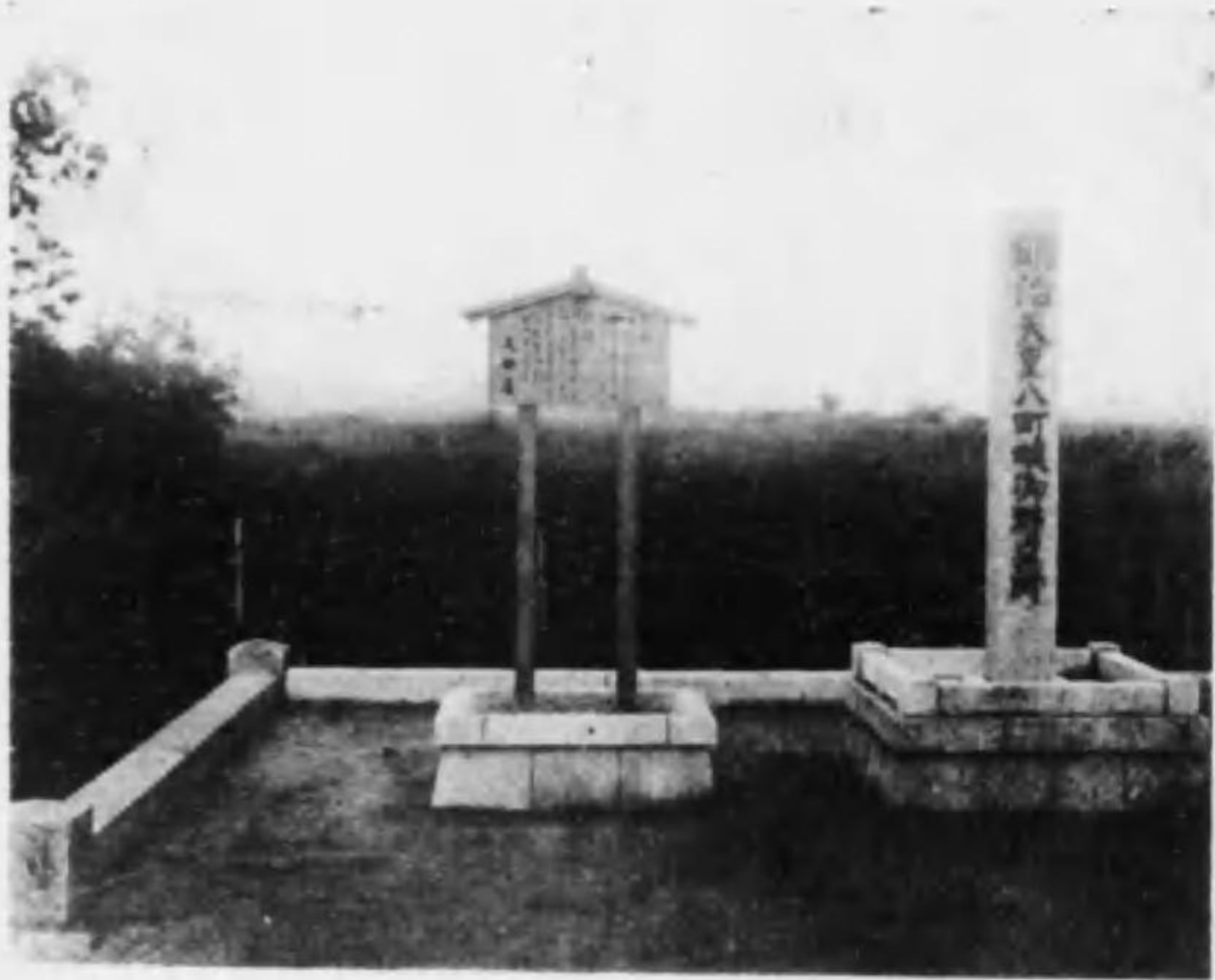
神寶には舞樂面、刀劍、古文書等多く、内國寶に指定されたもの二十種以上にあつてゐるが、國寶以外のものにも由緒ある優れたものが尠くない。

笛のれに神のこころやたよらん森の木風も吹きまさらなり 赤染右衛門

明治天皇覽穫地

(南區熱田東町濱新田)

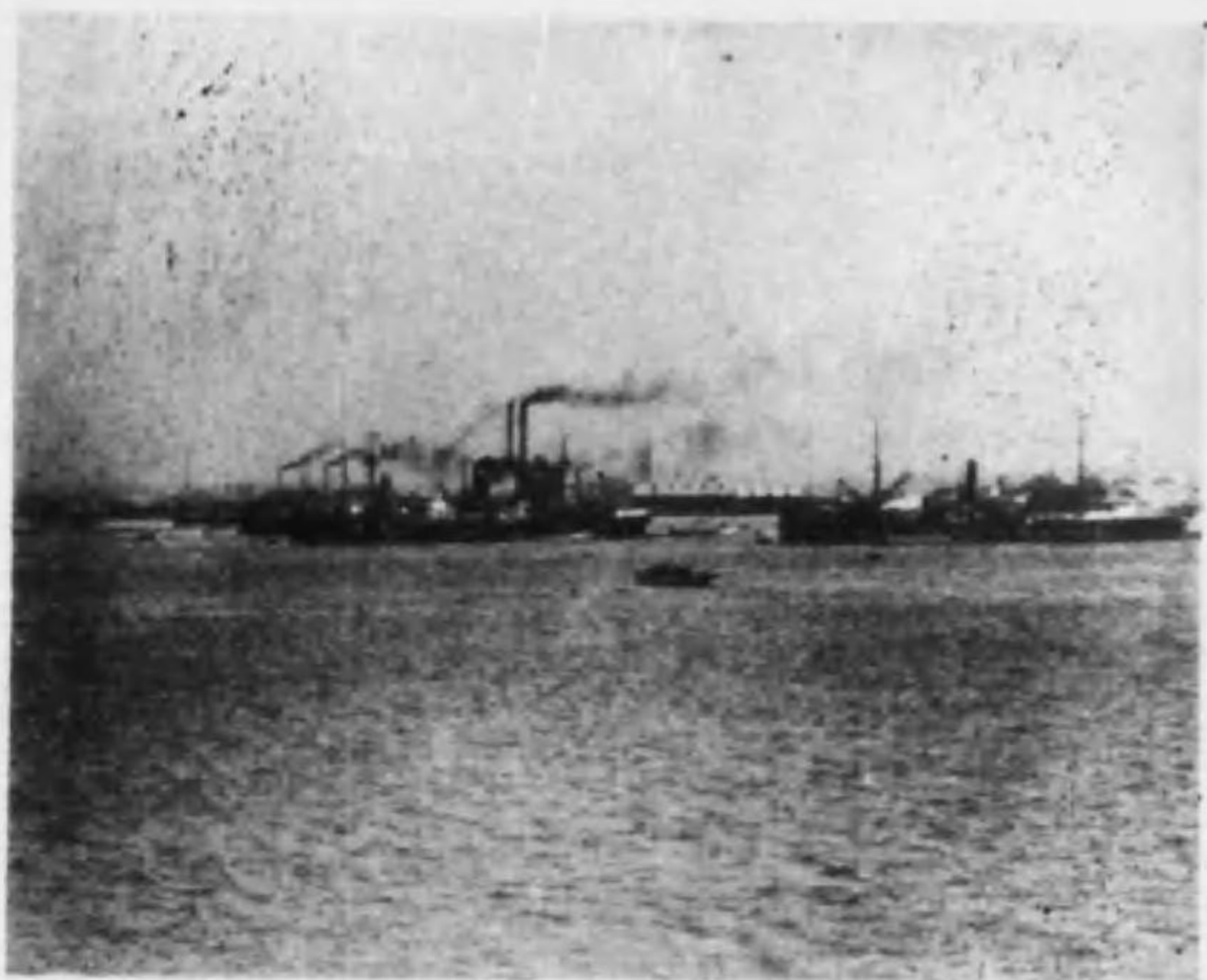
此地は俗に八町噉と稱せられる。明治元年九月二十七日、天皇御東幸の際、農民收穫の實況を天覽あらせられた他に類例のない聖蹟で、今史蹟に指定されてゐる。大正二年徳川義親侯爵は其の土地を購入して「明治天皇覽穫之所」の碑を建て、永く御聖徳を拜頌し奉るこころ、した。隣接の水田は今熱田神宮に寄附せられ神宮の御供田となつてゐる。



名古屋港

市の西南、伊勢灣の極北に位する開港場で、貨物集散上重要な地點を占め、昭和八年の入港船舶九萬四千餘隻、約一千六百萬噸、内外貿易は數量に於いて凡六百萬噸、價額にして三億四千餘萬圓を算してゐる。其の主なるものは石炭、木材、陶磁器、米、鐵、セメント、砂糖、小麥、羊毛等である。

本港はもと水淺く且つは港灣としての設備もなかつたので、本縣は明治二十九年以來三期に亘り一千五百四十八萬餘圓を投じて築港工事を行つた結果、一



名古屋港 突堤附近より見る

萬噸級船舶の出入が自由となり、船溜は同時に三十八隻を碇船せしめ、上屋鐵道、起重機等の陸上設備も整ひ、船車連絡の便稍備はるに至つたが、其の後貿易は倍々發展の趨勢にあるので、更に總工費二千十二萬圓を以て十二年繼續の第四期擴張工事の計畫を樹て、昭和二年以來工事を進めてゐる。之が完成の暁は船溜面積及び同時碇船汽船數は現在の約二倍となり、又繫船岸壁の延長千八百間、之に上屋十棟六千四百坪の新設を見るので、市の隆盛と相俟て益々其の使命を完うすべき一大港灣となるであらう。

中川運河

此の運河は市の西部地區を南北に縦斷して名古屋港と名古屋驛との海陸連絡を完全に、且つ其の沿線を一大大工場地帯になさんし、大正十五年十月工を起し、昭和五年十月竣工したもので、總工費は一千八百八十五萬九千三百三十二圓である。運河形式は閘門式で、總延長八千二百八米、其の幅員を九十米、

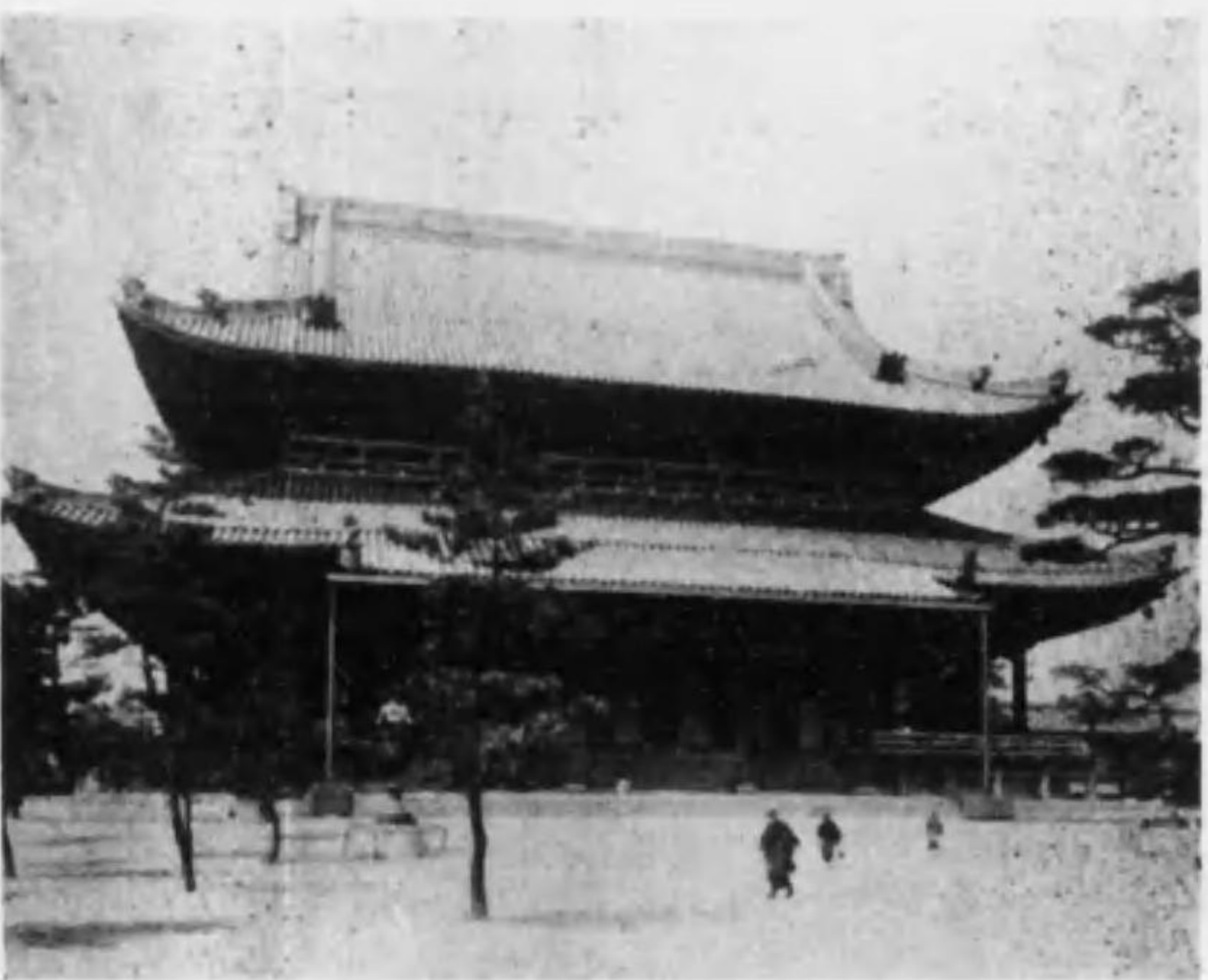
六十四米、三十六米の三種に分ち、河床は名古屋港水準基零點以下約二米に

掘鑿し、開門に依つて常に零米乃至一米半の水位を保たせ、平均三米の深さを有してゐる。

開門は中川口と堀川口の二ヶ所に、また舟溜を堀止、中川口、松重の三ヶ所に設け、運河の兩岸には八十七ヶ所の専用物揚場と百一ヶ所の公共物揚場がある。

眞宗大谷派本願寺

名古屋別院（中區下茶屋町）



眞宗大谷派本願寺 名古屋別院

つたのを、慶長十一年一旦名古屋袋町に移した。其の後大谷派本願寺の一如

も龍泉寺に號して海部郡蟹江村にあ

上人が名古屋の地に掛所を建立せんじ、龍泉寺を之に充てたが、偶々元祿三年藩主光友より古渡城址である現地を寄附せられたので掛所を此處に移し、一如上人を以て開山とした。現在の本堂は文化二年工を起し、十八年の日を費して文政五年落成したもので、其の規模の壯大なることは市内第一と稱せられる。

境内の新御殿は明治十一年以來屢々行在所となり、同二十三年三月陸海軍聯合大演習の際には大本營に充てさせられ、後庭の亭附近は明治二十年二月二十一日煙火天覽の場所となつた所で、孰れも今史蹟に指定されてゐる。

實生院 大須觀音（中區門前町）

眞言宗の寺院で北野山眞福寺と號し、もも中島郡大須庄にあつたのを徳川家康が慶長十七年現地に移したもので、大須觀音と稱せられ、古來大衆信仰の中心になつてゐる。

當寺には世に眞福寺本ミ稱する多くの珍籍を襲藏し、内國寶に指定されたもの二十八點に及んでゐる。

盛 場 大須||万松寺筋

(中區門前町附近)



寶生院本堂

大須は東京に於ける淺草の存在である。淺草觀音にも比すべき大須觀音の伽藍をとり圍んで様々な露店が蝟集し、仁王門から門前通に至る間は仲見世にも似て兩側に櫛比する店舗は鎬を削つて客を争つてゐる。

此の一帶は市内隨一の歡樂境で堂裏の萬歲、レビュウ、射的屋を始め寄席、劇場、映畫館なご凡ゆる娛樂機關が整



萬松寺通り 西方より見る

ひ、殊に宵の灯が點けば俄然活氣を呈し、カフェー、喫茶店、料理屋なごのネオンサインは鮮やかに空を五彩に色ざり忽ち不夜城を現出する。大須に續いて万松寺通りがある。大須に亞ぐ盛り場で既製洋服店、小間物、雜貨、小料理屋、カフェーなご軒をつらね劇場、映畫館の幟が路を掩ふて、民衆娛樂街としての濃厚な雰圍氣が漂ふてゐる。歩道はさながら人の洪水を思はせ、夜が織り出す光と色と音の交響樂は、更夜を忘れて軒に挟まれた數條の天にこだまする。

七 ツ 寺

(中區門前町)

眞言宗に屬する寺で、天文八年僧行基の開創と傳へられる。もと中島郡七寺村にあつたものを天正十九年清洲に移し、慶長遷府の際更に現地に移されたものである。

桃山時代の建築といはれる本堂を始め本尊の阿彌陀如來、脇侍の觀音、勢至兩菩薩の坐像及持國、多門二天王の立像は一切經と共に今國寶に指定されてゐる。

縣社 若宮八幡社

(中區末廣町)

もと名古屋城内天王社の南に在つたが、慶長築城のとき、現地に移され、城下の總鎮守とされた。縁起に従へば文武天皇の御宇の勸請で、天文元年の兵火に罹り同八年再建し、豊臣秀吉より社領二百石の寄進があつたが、徳川

時代には百石の社領が附せられて居た。

名古屋城

(西區南外堀町)

慶長十五年徳川家康が其子義直の爲めに西國二十二藩に命じて築城せしめたもので義直が此處に封ぜられて以來、二百六十年の間六十餘萬石の雄藩として榮え、親藩尾張侯の居城として維持せられたのである。

城は高臺の地を利用して築いたもので、西と北の二面は高い石垣を築いて其の周圍に濠を圍らし、南と東は深い空濠を設け、内側には土壘を築いて周圍の入



名古屋城御殿支關車寄

口に枳形を作り樓門が營まれた。大體の地割は本丸、二之丸、三之丸、西丸、御深井丸に分たれ、東を大手、西を搦手とした。本丸の周圍は更に深い空濶を圍らし、其處に天守閣と居館が營まれた。

明治四年廢藩の際、時の藩知事徳川慶勝は之を官に獻じた。同七年九月陸軍省の所轄に移り、尋いで名古屋鎮臺の兵營設置さるゝに及んで、二之丸、三之丸の各殿舎、建物は概ね取除かれた。越えて二十六年本丸、西之丸、御深井丸は宮内省の所管となり、名古屋離宮と定められた。爾來幾度か聖駕を迎へ奉つたが、昭和五年十二月離宮廢止と共に名古屋市に御下賜になり、今は一般に公開されてゐる。

天守閣は加藤清正の造營にかゝる高さ四十二米の五層樓閣で、頂上の金鏡は維新後一度取り下されて歐洲まで送られたこともあつたが、後ち再び閣上へ上げられ燦然と昔のまゝの姿で輝いてゐる。

御殿は立關より大廊下を経て表書院、對面所、上洛殿、湯殿書院、黒木書

院等があり、各室の壁や襖は、築城當時の名家に依つて描かれたもののみである。

城の主なる建物は國寶に、建物及び重要な地域は史蹟に指定せられて居り又西之丸にある築城以前から著名な榎の老樹は天然紀念物に指定せられて居る。

尙ほ二之丸の庭園は名園として知られ、今は歩兵第六聯隊の構内に在る。

縣社 東照宮

(西區長島町)

元和五年藩祖義直が天海僧正を請じて名古屋城三之丸に創建せしめたもので、祭神は徳川家康である。舊時には社領千石を有し、また天台宗に屬して五百石の寺領を有する別當神宮寺も附隨してゐたが、之は明治三年廢絶した。社殿は所謂權現造の善美を盡せるもので、明治八年現地に移され、其の規模は多少縮少せられたとは云へ舊觀は改められてゐない。

神寶正恒の銘ある拵絲卷太刀と藩祖義直寄進の銘宗近の拵絲卷太刀の二口は國寶に指定されてゐる。



東照宮例祭(名古屋)の山車

尙ほ四月十六、七日の兩日に行はれる大祭は古くより名古屋祭と稱して全市を沸き立たせる大掛りなものである。十五日、三基の神輿を祭文殿へ奉徒し、十六日は早朝から舞樂を奏し、十七日には末廣町の若宮八幡宮へ神輿の渡御がある。此の渡御が最も豪華を誇るもので、先づ白衣の仕丁が先驅として御神を押立て太鼓を打つて東照宮の正門を茶屋町に出で、茶屋町から本町に、更に本町を南下して若宮に

到る。之に續いて各町から九輻の山車が順次曳出され、次に警護ミして大母衣着けた甲冑武者が眞先きに、續いて大江山入りの頼光があるかと思へば蜀漢の關羽が青龍刀を引提げて睥睨する。さてはまた嚴しい馬上の武士、徒武の行列、更に續く騎馬の神主を先頭に三基の神輿が嚙啗たる樂の音に送られて嚴肅に渡御するのである。その行粧の善美は他に比類なき壯觀である。

徳川時代には渡御御陪觀と稱して沿道の商家は家業を休み軒に矢來を結んで金屏風なき立て廻し、神輿通過の際は床三寸より頭を上げなかつたと謂ふ。今日矢來は廢せられたが、商家は概ね休業し獻燈して定紋付幔幕を張つてゐる。

縣社 那古野神社

(同前)

東照宮の東隣に在る。俗に龜尾天王社と稱し、祭神は素盞鳴尊である。縁起に従へば醍醐天皇の延喜十一年勅に依つて創建せられたもので、其の後天

文元年兵火に罹つたが、同八年再建された。慶長の築城に際しては廓内となるので遷座の議が起つたが、家康神前に於いて御鬮をこらしめ、再三遷座不可の御鬮が下りたので、遂に舊地に留め、城の鎮守となし更に府内の氏神としたといはれてゐる。神領三百石を有して維新まで三之丸に東照宮と並んで鎮座し、其の後現地へ遷されたものである。

七月十五、六の兩日行はれる例祭は天王祭と稱して有名である。

尚ほ別當天王坊は眞言宗に屬し著名な古刹であつたが、明治三年神佛分離の際廢寺になつた。

中 村 公 園

(西區中村町)

不世出の英雄豊臣秀吉の出生地を記念して、明治三十四年公園となしたもので、園内には池泉や松林があつて風致は頗る閑雅である。

豊國神社の側に「豊公誕生之地」と刻む石標が建てられてある。此處は古

來狐藪といはれた所で、今も竹藪となつてゐる。東隅に小出政秀、木下長嘯

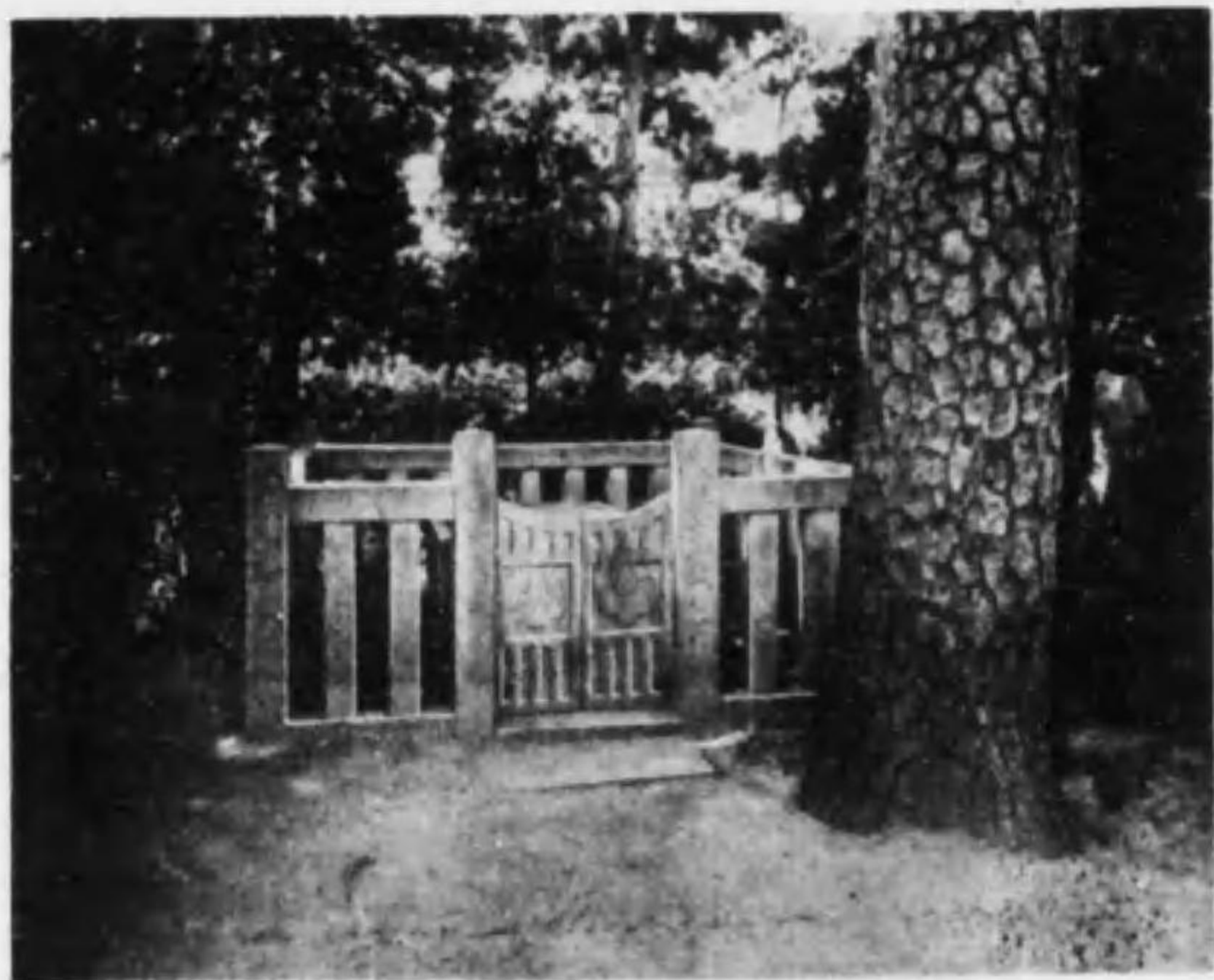
子の宅趾と稱するものもある。また隣接地太閤山常泉寺の境内には秀吉手植とする枸骨樹の老木や産湯井と傳へるものがあり、傍には近年建設された銅像もある。

尚ほ本園に隣接する妙行寺は、加藤清正の誕生地として知られ、境内には清正の像を祀れる清正堂及び文化七年の建設にかゝる加藤肥後侯舊里碑がある。

建 中 寺

(東區筒井町)

淨土宗に屬する舊藩主徳川家代々の菩提所で、慶安四年二代藩主光友が先



園中公村中 戸井の湯産吉秀

考義直の爲めに建立したもので、開山は下總結城弘經寺の廓呑である。

元祿十一年光友は生母靈仙院の爲めに靈屋を建て、爾來四字の靈屋が建てられ、天明五年の火災にも山門なごと共に難を免れたが、明治五年に至つて三字が廢せられ、一字を残して之を合祀した。其の後万松寺に在つた義直夫人高原院の靈屋が移されて今は二字となつてゐる。境内頗る廣く、宏壯な殿宇が建ち並び市内屈指の巨刹である。

徳川園

(東區徳川町)

昭和六年徳川家から名古屋市に寄附せられた舊徳川邸である。之は元祿九年二代藩主徳川光友の別邸として造營されたものであるが、現在の宏壯な建物は明治三十三年御料局拂下の良材を以て建築せられ、幽邃な庭園は名古屋城二之丸に在つた庭石を以て造園された。

今は各種の集會に、また園内の一部には兒童遊戯の設備をも施して孰れも

有料にて一般の使用に供されてゐる。

長母寺

(東區矢田町)

臨濟宗に屬し、治承三年山田重忠が其の母長母院の爲めに創建したもので觀法を開山し、當時天台宗であつたと謂はれてゐる。その後山田道圓坊夫妻に依つて七堂伽藍が營まれたが、弘長三年第三世靜觀坊が無住國師を開山とし、今の宗に改めた。弘安四年勅願所となり、康永二年には足利尊氏の祈願所となつたといふが、其の後兵火の爲堂舎灰燼に歸して、文祿以後は大いに廢頽した。慶安三年澤彦和尚之を再興し、更に天和年間藩主光友に依つて伽藍が再建されて今日に及んで居る。

堂前の一劃に植込まれた山茶花や椿には無住國師入定の靈驗の然らしむるまじろといはれる寄生植物ヒノキバヤドリギが出てゐる。

寺寶に國寶無住國師等身の坐像を始め無住の筆蹟や古文書等がある。

日 蓮 寺

(東區田代町)



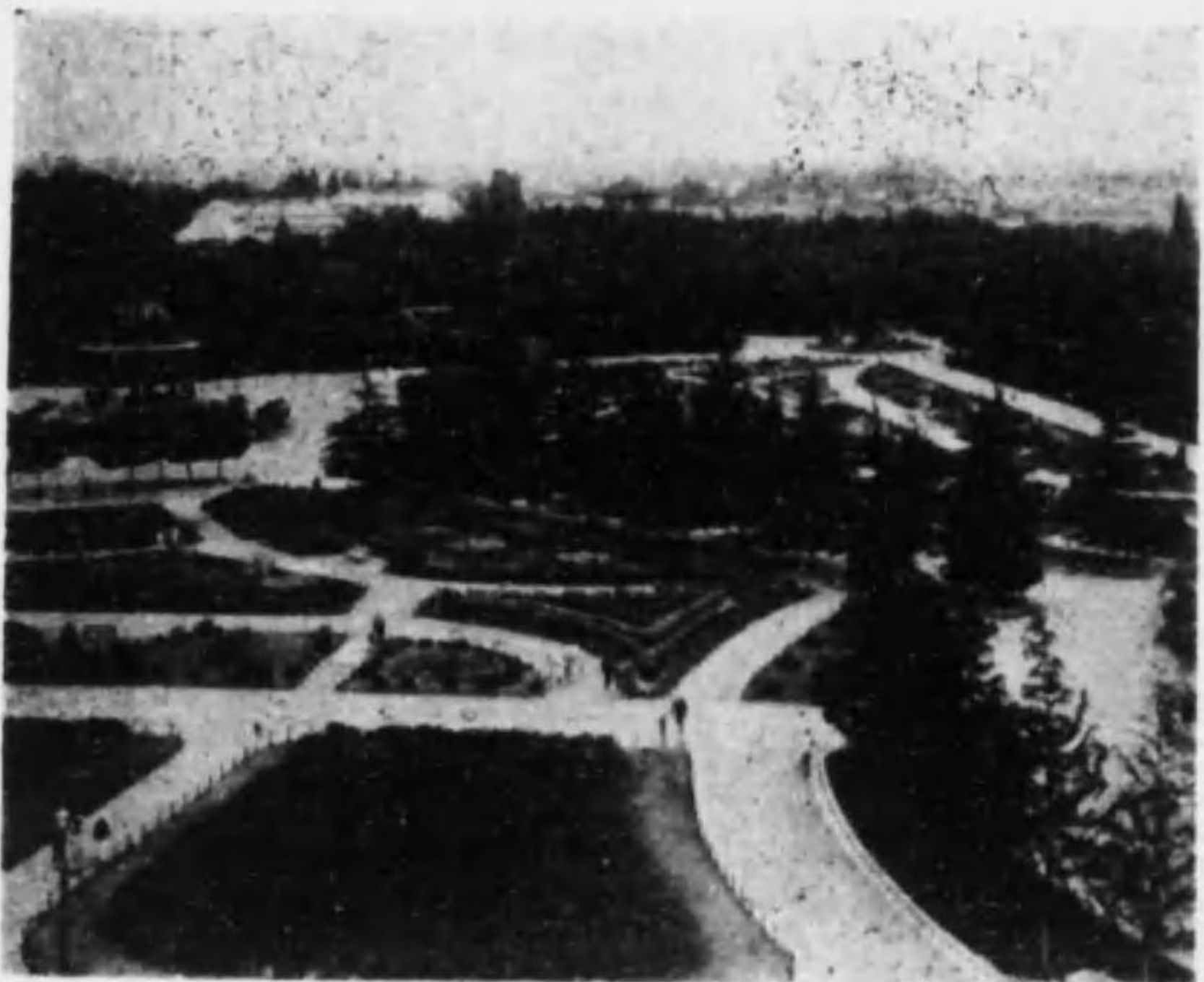
日蓮寺舍利奉安塔

覺王山と號し、釋尊の遺骨を奉安せる靈場である。此の遺骨は明治三十三年暹羅國皇帝より我國佛教徒に贈られたもので、之より二年前一英人が英領印度ビツブラーワ地方の一小丘で發掘し、翌年印度カルカッタ政府は之を暹羅國皇帝に贈與したもの、一部で

ある。

此の寺は佛教三十宗派聯合會主催で創建せられ、住職は各宗交代で之に補

することになつてゐる。



鶴舞公園 音樂堂附近

鶴舞公園

(中區鶴舞町)

境内は市の東郊丘陵の起伏する廣い地域を占め、春の櫻、秋の紅葉の眺めもよい。

られた有数の歐風公園である。美しく刈りこまれた樹林を透して公會堂、醫

科大學、高等工業、美術館、聞天閣、圖書館などが散見される。

聞天閣は當時の記念物として残された室町風の宮殿造りて之と相並んで猿面の茶屋がある。此の茶屋はもと御城御數寄屋と稱し、古田織部の好みに依り織田信雄（一説織田有樂）の造營したもので、爾來轉々して最近此處に移された。

尚ほ東方に八幡山古墳がある。直徑八十二米、高さ十米の一大圓墳で周遶の跡を存し、埴輪も發見せられ、今史蹟に指定されてゐる。

八 事 山

市の東郊に在る。丘陵起伏するなかに池や森があつて自然の一大公園をなし、春は櫻、秋は紅葉と春秋行樂の中心になつてゐる。最近はこの美しい環境を利用して高級住宅地が實現されつゝある。

附近に眞言宗の名刹興正寺がある。高野山、金剛峰寺の末寺で東西の二山



八事山興正寺の五重塔

に分れ、東山を遍照院、西山を普門院と稱する。貞享三年僧天端が高野山から來つて此の地に草庵を結んで住した。時の藩主光友は之に歸依し、大伽藍を建立して今の寺號を興へた。同十年寺後の山頂に一丈二尺の銅造大日如來を安置し、後ち西山に普門院を建立したので之より東西兩立するこゝになつた。東山は持戒堅固の神聖地として維新前は婦女子の入山を禁じ高野山の奥の院に擬して路の兩側に石造の寶篋

印塔を並立したので尾張高野の稱がある。

境内は頗る廣大で五重塔始め數多の堂宇が建ち並んでゐる。

笠 覆 寺

(南區笠寺町)

俗に笠寺と稱する眞言宗の寺である。縁起に従へば聖武天皇の天平八年善光なる者が呼續濱に漂着し、夜々光を放つ靈木を以て自ら彫刻した十一面觀音を安置して小松寺と稱した。その後堂宇が廢頽し、荒野の中にこの尊像が雨曝しになつてゐたので、鳴海の長者の娘が自らの笠を脱いで此の佛に着せ參らせた。後ち彼女は時の太政大臣藤原基經の子兼平の寵を得たので、延長年間堂宇を再建し、田畑を寄附して笠覆寺と稱したといふ。その後曆仁の頃阿願なるものに依つて堂塔が再興せられた。

阿願の寄進にかゝる建長三年在銘の梵鐘が今に存し、また寺寶の色紙墨書の法華經第五十一卷は圖寶に指定されてゐる。

主なる工場會社

株式會社大隈鐵工所 東區布池町にある。工作機械の製造に於ては首位に在る工場で、軍需品工業界に貢献する所實に大なるものがある。殊に最近日本車輛、岡本自轉車の二會社と協力して、純國產自動車の製作に成功したことは特筆すべきで、製品の市場に現はれるのも近き將來にある。

東海電極製造株式會社名古屋工場 中區堀江町にある。化學工業に於ける代表的のもので、専らカーボランダム、電極、電刷子、黒鉛等の製造に従事する特殊の工場である。

日本陶器株式會社 西區則武町にある。本邦に於ける純白硬質陶器製造工場の始祖であり、海外輸出陶器工場中最大なるもので、其の設備の完備と規模の壯大は日本陶業界の代表的のものである。

日本車輛製造株式會社 南區熱田東町にある。這種工場中本邦屈指のもので、

其の名は普く知られ、主として蒸氣、電氣機關車、鐵道用客貨車、電車、ガソリン機動車等を製作してゐる。

三菱重工業株式會社名古屋航空機製作所 南區大江町にある。愛知時計と相並んで本邦民間航空機製作所中屈指のもので、内燃機、一般兵器の製作も亦その俊秀を全國に誇稱されてゐる。

殊に本社の獨創にかゝる三菱大馬力の發動機は我國最初の國産強力發動機として斯界に多大の稱讚を博し、本邦發動機工業界に貢献するところが多い。

株式會社大同電氣製鋼所 南區熱田東町にある。本邦屈指の特殊合金製造工場で、合金、製鋼、製鐵等その規模の壯大、技術の精巧は共に世界的のものである。現在各省の指定工場となり、製作される電氣爐の如き其の需用の範圍は極めて廣い。

愛知時計電機株式會社 南區千年町にある。初め時計製造工場として生れたが、其の後之を分離して瑞穂工場に移し、本工場では専ら海軍兵器及び航空

機等の製造に當り、其技術の精密は獨り中京の誇りたるに止らず、本邦工業界屈指の工場として斯界に名聲を馳せてゐる。

日本碍子株式會社 南區堀田通にある。點火栓、化學磁器、絶縁物の製作に於いて世界の首位を争ふ盛名を設備を有し、輸入を防遏して今や海外輸出を行ふの状態にある。

庄内川レーヨン株式會社 市の西郊庄内町にある。年産三百四十萬封度、價額にして三百萬圓に達するも、更に日産十疋即ち現在の倍額生産をなさんと目下工場の増設準備中である。而して其の製品は主に支那、印度方面に輸出されてゐる。

尙ほ姉妹會社、庄内川染工所もこの町に在つて専ら輸出向綿布の晒加工を行ひ、其の額百五十萬反に及ぶ。

主なる官公署、學校、銀行、會社、工場一覽

愛知縣廳	東區武平町
名古屋市役所	西區南外堀町
名古屋市東區役所	東區布池町
名古屋市西區役所	西區南外堀町
名古屋市中區役所	中區新榮町
名古屋市南區役所	南區熱田東町
帝室林野局名古屋支局	東區武平町
名古屋土木出張所	同上堅杉ノ町四丁目
名古屋地方職業紹介事務局	愛知縣廳內
大藏省預金部名古屋支部	中區古澤町
名古屋地方專賣局	同

名古屋稅務監督局	同
陸軍造兵廠名古屋工廠	南區熱田東町
陸軍兵器本廠名古屋陸軍兵器支廠	東區鍋屋上野町
名古屋憲兵隊	西區
第三師團司令部	同
名古屋聯隊區司令部	同
步兵第五旅團司令部	同
名古屋控訴院	東區主稅町
名古屋地方裁判所	同
同少年審判所	東區鍋屋上野町
同刑務所	同千種町
名古屋醫科大學	中區鶴舞町
名古屋高等商業學校	南區瑞穗町

第八高等學校

南區瑞穂町

名古屋高等商業學校

中區御器所町

真宗專門學校

同 下茶屋町

金城女子專門學校

東區白壁町

相山女子專門學校

同 田代町

市立名古屋圖書館

中區鶴舞公園

名古屋公眾圖書館

東區武平町

農林省米穀部名古屋米穀事務所

南區大江町

名古屋輸出絹織物檢查所

西區上名古屋町

名古屋貯金支局

東區横代官町

名古屋郵便信局

同 長塀町

名古屋無線電信局

中區榮町

同 中央電話局

西區桶屋町

名古屋鐵道局

同 西柳町

愛知縣測候所

東區田代町

愛知縣學園

同

名古屋港務所

南區港本町

愛知縣農產物檢查所

愛知縣廳內

同 工業試驗場

東區花田町

同 毛織物檢查所

愛知縣廳內

同 商品陳列所

中區新榮町

同 水產試驗場

愛知縣廳內

同 蠶業取締所

同

名古屋土木工區事務所

中區御器所町

名古屋臨時海港檢疫所

南區築地四號地

縣立精神病院

東區田代町

同	株式會社伊藤銀行	同	西區南外堀町
同	名古屋銀行	同	同 御幸本町通
同	愛知縣農工銀行	同	中區榮町
同	愛知銀行	同	同
同	日本貯蓄銀行	同	西區御幸本町通
同	日本銀行名古屋支店	同	中區小林町
株式會社日本興業銀行名古屋支店	同	同	同 榮町
同 川崎第一百銀行名古屋支店	同	同	同 長島町
同 第一銀行名古屋支店	同	同	西區島田町
同 野村銀行名古屋支店	同	同	同 下園町
同 山口銀行名古屋支店	同	同	中區榮町
		同	同 南桑名町

同	安田銀行名古屋支店	同	同 南大津町
同	三十四銀行名古屋支店	同	西區御幸本町通
同	三井銀行名古屋支店	同	中區新柳町
同	三菱銀行名古屋支店	同	同 南長島町
同	百五銀行名古屋支店	同	西區御幸本町通
同	住友銀行名古屋支店	同	中區新柳町
同	伊藤忠商事株式會社名古屋支店	同	同
株式會社猪村商會		同	南區熱田中瀬町
同 服部商店		同	東區宮町
同 日本陶器株式會社		同	西區則武町
同 日本碍子株式會社		同	南區堀田通
同 日本毛織株式會社名古屋工場		同	中區岩塚町
同 日本電力株式會社名古屋營業所		同	同 新柳町

名古屋市

日本郵船株式會社名古屋支店
 日本綿花株式會社名古屋支店
 日本車輻製造株式會社
 日本麥酒釀泉株式會社名古屋支店
 日本水產株式會社
 合資會社新田帶革製造所名古屋出張店
 日清製粉株式會社名古屋工場
 日清製油株式會社名古屋出張所
 東邦瓦斯株式會社
 東邦電力株式會社名古屋支店
 東海曹達株式會社名古屋工場
 東海毛絲紡績株式會社
 東海電極製造株式會社名古屋工場

中區天王崎町
 東區七間町
 南區熱田東町
 中區新柳町
 南區熱田木ノ免町
 中區笹島町
 西區則武町
 中區禰宜町
 同 御器所町
 同 松ヶ枝町
 南區築地五〇
 西區下園町
 中區堀江町

東洋紡績株式會社名古屋支店
 東洋製罐株式會社名古屋出張所
 豐田紡織株式會社
 豐田押切紡織株式會社
 豐田式織機株式會社
 東陽倉庫株式會社
 豐國セメント株式會社名古屋工場
 東洋綿花株式會社名古屋支店
 合名會社遠山商店支店
 東京モスリン紡織株式會社名古屋工場
 東神倉庫株式會社名古屋出張所
 尾張時計製造株式會社
 岡谷合資會社

西區島田町
 同 堀内町
 同 榮生町
 同 葎原町
 同 島崎町
 中區天王崎町
 南區大江町
 西區傳馬町
 同 下長者町
 東區下飯田町
 南區千年町
 東區葵町
 中區鐵砲町

名古屋市

株式會社岡本自動車製作所
 大臺林業株式會社
 小野田セメント製造株式會社愛知支社
 株式會社大隈鐵工所
 株式會社加藤商會
 川西倉庫株式會社名古屋出張所
 片倉製絲紡績株式會社千種出張所
 貝島炭鐵株式會社名古屋出張所
 株式會社春日井商店
 大日本紡績株式會社名古屋出張所
 大日本電線株式會社名古屋出張所
 大日本人造肥料株式會社名古屋出張所
 大日本麥酒株式會社名古屋支店

一六〇
 中區東郊通
 同 正木町
 南區熱田東町
 東區布池町
 西區木挽町
 中區納屋町
 東區千種町
 中區南大津町
 西區御幸本町通
 中區新柳町
 同 西瓦町
 南區西築地四號地
 東區高松町

大同電力株式會社名古屋支店
 株式會社大同電氣製鋼所
 合名會社竹中工務店名古屋支店
 瀧定合名會社
 株式會社瀧兵商店
 內外紡績株式會社
 內外編物株式會社名古屋工場
 株式會社中村吳服店
 同 中棗酢店名古屋支店
 名古屋紡績株式會社
 株式會社名古屋米穀取引所
 名古屋土地株式會社
 株式會社名古屋株式取引所

同 七間町
 南區熱田東町
 西區菅原町
 同 東萬町
 同 御幸本町通
 南區瑞穗町
 中區鎌田町
 同 榮町
 西區木挽町
 南區八熊町
 中區米濱町
 西區日比津町
 中區南伊勢町